

北大時報

June 2010

No.675

平成22年

6

**北大交流プラザ「エルムの森」正門横に
移転ー開所式挙行**

お知らせ

●施設整備の概要

**情報科学研究科 野島教授が「電波の日」
総務大臣表彰を受賞**

**第8回産学官連携功労者表彰に本学
から2名が受賞**



北大交流プラザ「エルムの森」正門横に移転 (2010.6.24)

目 次

全 学 ニ ュ ー ス

○北大交流プラザ「エルムの森」が正門横に移転－開所式挙行……………	1
○情報科学研究科 野島教授が平成22年度「電波の日」総務大臣表彰を受賞……………	2
○「科学・技術フェスタ in 京都」平成22年度産学官連携推進会議に参加……………	3
○第8回産学官連携功労者表彰に本学から2名が受賞 ……	4
○平成23年度AO入試学生募集要項の発表 ……………	6
○平成23年度帰国子女入試学生募集要項の発表 ……………	8
○名誉教授称号授与式の挙行……………	10
○学士会館の七大学展示コーナー開設セレモニー…	11
○北大フロンティア基金……………	12
○高等教育機能開発総合センター「S研究棟」見学会の実施……………	14
○「海外留学説明会」を開催……………	15
○「短期語学研修プログラム説明会」を開催……………	16
○「出入国管理制度説明会」開催……………	17
○遺伝子組換え実験の申請等に係る講習会を実施…	18

部 局 ニ ュ ー ス

○環境科学院講義棟新宮及びA棟耐震改修竣工披露式・祝賀会を挙行 ……………	19
○IAEA主催国際核反応データセンターネットワーク技術会議を北大にて開催 ……………	20
○北海道大学－ISTC主催の「北太平洋地域地震火山噴火防災のための研究推進に関する国際ワークショップ」を開催……………	21
○TEM（日中韓3カ国環境大臣会合）学生会議への参加……………	22
○スラブ研究センター公開講座「地域大国比較の試み：ロシアを中国やインドと比べたら何が分かるか？」が終了……………	23
○第17回ファーマサイエンスフォーラム－北海道大学領域融合研究ユニット心身相関学研究室キックオフシンポジウムを開催 ……………	24
○薬学部でメンタルケア講習会を実施……………	25
○環境科学院で北大祭・研究施設公開「もっと身近に環境科学」を開催 ……………	26
○第2回人文学カフェ「村上春樹『1Q84』を読む－物語をかきかえる－」を開催 ……………	27
○経済学部で「北海道経済が発展するための原動力は何か」をテーマに講演会を開催……………	28
○会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催 ……	29
○工学部で講習会「ワークショップをはじめよう!!」を開催……………	30

○日本ハムファイターズ、北海道大学病院院内学級を訪問……………	31
○看護週間－「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施…	32
○「地質の日」・「国際博物館の日」記念企画展示「わが街の文化遺産－札幌軟石 歩いた！ 探した！ 見つけた！」を開催 ……………	33
○附属図書館で企画展示「北方古地図展」第一期「北海道図の変遷」を開催……………	34
○定山溪中学校修学旅行事前学習を大学文書館で実施……………	35
○農学部応用菌学講座・「半澤式納豆」関係資料を大学文書館で新たに受贈……………	36
○田邊至油彩画（1913年）を大学文書館で受贈……………	37
○工学部所蔵沿革資料を大学文書館に移管……………	38

お 知 ら せ

○施設整備の概要 ……………	39
----------------	----

表 敬 訪 問

……………	41
-------	----

同 窓 会 と の 交 流

○工学部同窓会総会 ……………	43
○北水同窓会定期総会 ……………	43
○平成22年度北海道大学連合同窓会総会（評議員会・幹事会合同会議）の開催 ……………	44

諸 会 議 の 開 催 状 況

……………	45
-------	----

学 内 規 程

……………	45
-------	----

人 事

○新任教授紹介……………	46
--------------	----

訃 報

○名誉教授 入江 遠 氏……………	47
○名誉教授 柴田 拓二 氏……………	48
○名誉教授 小島 幸治 氏……………	50

資 料

○在籍学生数（平成22年5月1日現在）……………	51
○平成22年度外国人留学生数（平成22年5月1日現在）……………	53
○平成22年度国別外国人留学生数（平成22年5月1日現在）……………	54
○平成21年度卒業・修了者の就職等状況一覧 ……………	55

全学ニュース

北大交流プラザ「エルムの森」が正門横に移転 —開所式挙行—

北大交流プラザ「エルムの森」は、平成15年5月、旧札幌農学校昆虫学及養蚕学教室にインフォメーションセンターとしてオープンし、約28万人という多くの皆さんの利用がありました。利用者のさらなる利便性向上を図るため、正門横の旧守衛室跡に移転することになり、本年5月末に竣工しました。

6月24日(木)に行われた開所式では、佐伯総長の挨拶、逸見理事・副学長の概要説明に引き続き、普段はモデルバーンに展示してある「エルムの鐘」の音を合図に建物に入場しました。

この建物は周囲の木々と共存するデザインで、環境への配慮として地中熱を利用した冷暖房、太陽光発電による電力利用、LED照明などにより環境・省エネルギー対策を行っています。

正門をくぐって、すぐ左手という立地条件から、「大学のおもてなし」の場として、学内のイベント情報や学会の開催状況をはじめ、幅広い問い合わせに対応できるように努めるとともに、これまでのグッズショップのほかにカフェも新たに設置して北大へいらした方々をお迎えします。



開所式で挨拶する佐伯総長



明るいホールで談笑する出席者



ウッドデッキにてコーヒーで一息、逸見理事・副学長



建物の特徴について説明する田島施設整備課長

(総務部広報課)

情報科学研究科 野島教授が平成22年「電波の日」総務大臣表彰を受賞

情報科学研究科 野島俊雄教授が、平成22年度「電波の日」総務大臣表彰を受賞し、6月1日（火）帝国ホテルにおいて表彰式が挙行されました。

本賞は、情報通信の発展に尽力した功労者に与えられるもので、「多年にわたり、生体電磁環境研究の成果をもとに我が国の生体安全性評価検討を先導するとともに、全国各地での電波

の安全性に関する説明会を通じて電波の正しい知識の普及に努めた。また、北海道電波適正利用推進員協議会会長として尽力するなど、安心・安全な電波利用の発展に多大な貢献をした」ことが評価されました。

受賞にあたっての同氏の功績等を紹介します。

（総務部広報課）



略 歴 等

昭和49年3月 北海道大学大学院工学研究科電子工学専攻修士課程修了
 昭和49年4月 民間（日本電信電話公社，日本電信電話株式会社，
 平成13年12月 NTT移動通信網株式会社，株式会社NTTドコモ）
 昭和63年12月 博士（工学）（北海道大学）
 平成14年1月 北海道大学大学院工学研究科教授
 平成16年4月 北海道大学大学院情報科学研究科教授

野島俊雄教授は、携帯電話に代表されるワイヤレス通信機器が発射する電波について、その生体影響と電子機器障害のEMI（Electromagnetic Interference，電磁干渉）評価技術を世界に先駆けて研究開発し、国内外での技術標準化に貢献しています。研究成果は多くの著作物，論文及び国際会議で公表されており，学問発展に大きく寄与しています。この技術分野は，近年の電波利用の拡大に伴い研究開発の必要性が顕在化したものであり，今後の産業基盤の一つとなるユビキタス通信の円滑な普及発展のため益々重要なものとなっています。

代表的な業績として，携帯電話電波による医用電気機器への電磁干渉評価技術の確立があります。1990年代初頭から日本，欧米でデジタル電波を用いた携帯電話・PHSが実用化されましたが，この新電波の登場によって電子機器へのEMI問題が大きな社会問題として浮上しました。この電子機器EMI評価技術について，測定系の研究開発と心臓ペースメーカーなどの重要電子機器の実験調査研究を世界に先駆け企画遂行しました。この研究成果は，野島教授が作業班

主任として取りまとめた旧不要電波問題対策協議会の報告書の主要部分を構成し，EMI障害を防ぐための指針の開発に多大な貢献を果たしました。この指針は携帯電話のみならずRFID（Radio Frequency Identification，電波による個体識別）などにも適用され，現在，電波利用機器の安全・安心の保証を確保するための重要な存在となっています。

このほか，環境電磁工学の重要対象の一つである無線回路・装置について高効率・線形化技術等の各種の設計技術の研究開発，無線通信技術の発展において極めて効果的な成果を多く挙げており，それらは今日のマイクロ波通信技術発展の基礎を築いたものです。現在，野島教授は軽量人体ファントム，高感度電界プローブ掃引法などの新技術の研究開発を意欲的に推進しており，EMI・EMC（Electromagnetic compatibility，電磁環境適合性）分野における新たな研究領域の創出と若手研究者・技術者の育成に多大な貢献を果たしています。

（情報科学研究科）

ー科学・技術フェスタ in 京都ー平成22年度産学官連携推進会議に参加

6月5日(土)に国立京都国際会館において、約5,100人が参加し、ー科学・技術フェスター平成22年度産学官連携推進会議が開催されました。

本会議は、科学・技術の重要性や産学官連携の成果を国民に広くPRすることを目的としています。

会議の部では、基調講演、特別講演が行われ、パネリストによる問題提起と活発な討論が繰り広げられました。

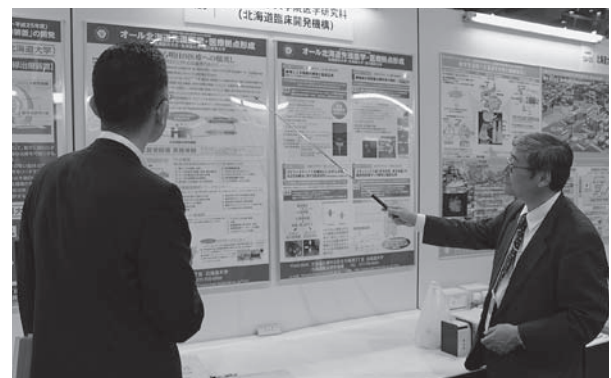
更に、今年度は、高校生等を対象にした特別イベントとして、ノーベル賞科学者の小柴先生、小林先生、田中先生がパネリストとして登壇するなど注目を集めていました。

また、本会議場に隣接したイベントホールでは、会議と並行して展示会が行われ、本学を含む全国各地から219団体のブースが立ち並び、各大学等の研究成果等が紹介されました。

本学においては、産学連携本部、創成研究機構、大学院医学研究科(北海道臨床開発機構)、大学院医学研究科(最先端支援プログラム)、未来創薬・医療イノベーション拠点形成事業及び、本学が参画する「北大リサーチ&ビジネスパーク協議会」から7ブースが出展され、各ブースには多数の来場者が訪れ、各担当者は、熱心に研究内容等を説明し、盛況のうちに閉会しました。



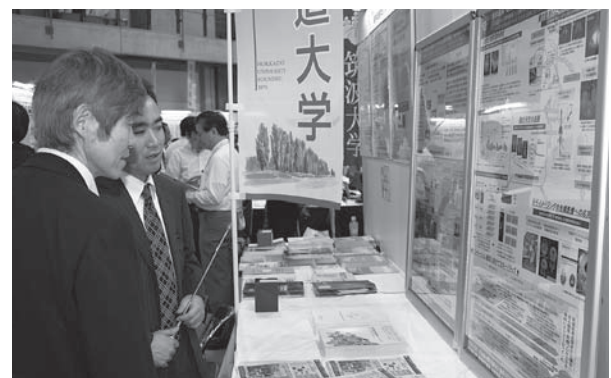
来場者への説明の様子
【産学連携本部・創成研究機構】



来場者への説明の様子
【医学研究科(北海道臨床開発機構)】



来場者への説明の様子
【医学研究科(最先端支援プログラム)】



来場者への説明の様子
【未来創薬・医療イノベーション拠点形成事業】

(学術国際部産学連携・研究推進課)

第8回産学官連携功労者表彰に本学から2名が受賞

本年6月5日（土）に京都で開催された「科学・技術フェスタin京都」平成22年度産学官連携推進会議にて、本学の2名の教員が、「産学官連携功労者表彰」を受賞し、表彰されました。受賞内容は、次のとおりです。

【経済産業大臣賞】

○「中小企業が主役となり、着実に成果に結びつける産学官連携システムHoPE」

受賞者：荒磯恒久 北海道大学産学連携本部 副本部長，TLO部門長，教授，
HoPE運営委員長
鴨田秀一 北海道立工業試験場技術支援センター 所長，前HoPE運営委員長
渡邊民嗣 三晃化学株式会社 代表取締役，HoPE代表世話人

受賞理由：HoPE（Hokkaido Platform Entrance）は、北海道の産学官連携組織として平成13年6月に設立された。平成21年度末において、会員企業約250社、支援機関約30機関が参画し、350名以上の研究者・コーディネータが活動している。毎月開催している定例会と13の専門分野からなる研究会が活動の基盤であり、研究シーズと企業ニーズのマッチングを行い、研究開発・事業化プロジェクトへと発展させていくスタイルとなっている。HoPEを核とした産・学・官の出会いから、地元中小企業が主役となった共同研究に取り組むことにより、新製品及び新事業創出に結びつけている。地域における産学官連携による架け橋モデルとして高く評価できる。

【環境大臣賞】

○「少水量対応高効率地中熱利用ヒートポンプシステムの開発」

受賞者：中村 靖 新日鉄エンジニアリング株式会社 シニアマネジャー
長野克則 北海道大学大学院工学研究院 教授
葛 隆生 北九州市立大学国際環境工学部 講師

受賞理由：新日鉄エンジニアリング（株）のゼネコンとしての空調設備の設計・施工実績と回転圧入鋼管杭（地下空間構築）技術に、北海道大学の地中熱利用に係る豊富な研究実績をプラスするという、産学連携の相乗効果により、杭を中心とした地中熱交換機の性能を十分に発揮できる先進的な地中熱ヒートポンプシステムが開発された。本事例において、熱源水循環流量の少水量化を可能とし、建築物の基礎杭を利用することにより、システム効率の大幅な向上と費用の低減が図られたほか、冷房過多状態への対応として、地中熱・大気放熱併用システム、地中温度回復の評価手法が確立された。これらにより、従来より期待の高かった、地中熱源利用の幅広い普及が期待できる。



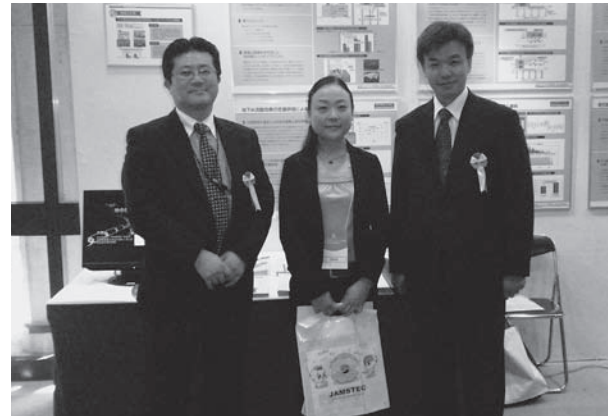
表彰される荒磯教授



表彰される長野教授



来場者に説明する荒磯教授



環境大臣賞を受賞された長野教授（右）

（学術国際部産学連携・研究推進課）

平成23年度AO入試学生募集要項の発表

平成23年度AO入試学生募集要項を6月18日（金）に発表しました。
概要は次のとおりです。

趣 旨

AO入試は、受験生の能力や資質を多面的に評価する入試制度です。

北海道大学の理念（フロンティア精神、全人教育、実学、国際性）を実現し、地球社会の未来を拓くパイオニアとして活躍できる素質を持った方を積極的に迎え入れるために実施しています。AO入試では、学力を含めた多様な個性・能力・資質・適性・目的意識や意欲を、提出書類や課題論文また面接によって総合的に評価します。一芸一能入試ではありませんので、基礎学力のあることが条件です。

受験生は、AO入試を実施する学部・学科（系）等の教育内容・求める学生像などをもとに、北海道大学での学生生活を十分理解し、明確な勉学目的と意志を持って出願されることを期待しています。

未来を拓く北海道大学

北海道大学は、世界の平和と繁栄に貢献する学術研究を発展させ、人類社会の未来を拓く創造力と責任ある行動力・指導力に富む人材を育成するために、教育研究に取り組んでいます。

本学は、建学以来基盤としてきたフロンティア精神のもとに、

- 先端的な学術研究を推し進める創造性と知性を持つ人材
 - 高度な専門的知識を備えた職業人として社会に貢献する人材
 - グローバルな視野と国際社会に発信できる力を備えた人材
- を着実に育てることを決意しています。

1 募集人員

理学部物理学科	5名
理学部化学科	8名
理学部生物科学科（生物学専修分野）	5名
理学部地球惑星科学科	5名

医学部医学系	5名
医学部保健学系看護学専攻	7名
医学部保健学系作業療法学専攻	4名
歯学部	5名
工学部応用理工系 （応用マテリアル工学コース）	4名
水産学部	20名

2 出願資格及び要件

(1) 資 格

次のいずれかの資格に該当すること。

- ① 高等学校又は中等教育学校を平成23年3月に卒業見込みの者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、平成22年4月から平成23年3月までに卒業又は卒業見込みの者

（すべての学部）

- ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成22年4月から平成23年3月までに修了又は修了見込みの者

（すべての学部）

- ③ 高等学校又は中等教育学校を平成22年3月に卒業した者及び学校教育法施行規則第93条第3項の規定に基づき、平成21年4月から平成22年3月までに卒業した者

（理学部化学科）

- ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成21年4月から平成22年3月までに修了した者

（理学部化学科）

(2) 要 件

次のすべての要件に該当すること。

- ① 合格した場合、入学を確約できる者

（すべての学部）

- ② 高等学校等で物理「Ⅰ・Ⅱ」を履修している者

ただし、物理「Ⅰ・Ⅱ」の履修が不可能な者については、物理「Ⅰ」及び「Ⅱ」を履修した者と同程度の学力を有する者とし、これに関する判断を、在籍する高等学校等の教諭が「個人評価書」に記載すること。

(理学部物理学科)

- ③ 高等学校等で化学「Ⅰ・Ⅱ」及び物理「Ⅰ・Ⅱ」を履修している者

ただし、物理「Ⅰ・Ⅱ」の履修が不可能な者については、物理「Ⅰ」及び「Ⅱ」を履修した者と同程度の学力を有する者とし、これに関する判断を、在籍する高等学校等の教諭が「個人評価書」に記載すること。

(理学部化学科)

- ④ 高等学校等で生物「Ⅰ・Ⅱ」を履修し、かつ、物理「Ⅰ・Ⅱ」及び化学「Ⅰ・Ⅱ」から1つを履修している者

ただし、物理「Ⅰ・Ⅱ」又は化学「Ⅰ・Ⅱ」の履修が不可能な者については、物理「Ⅰ」及び「Ⅱ」を履修した者あるいは化学「Ⅰ」及び「Ⅱ」を履修した者と同程度の学力を有する者とし、これに関する判断を、在籍する高等学校等の教諭が「個人評価書」に記載すること。

(理学部生物科学科)

- ⑤ 高等学校等で物理「Ⅰ・Ⅱ」又は化学「Ⅰ・Ⅱ」を履修している者

(理学部地球惑星科学科)

- ⑥ 高等学校等で生物「Ⅰ」を履修している者

ただし、生物「Ⅰ」の履修が不可能な者については、生物「Ⅰ」を履修した者と同程度の学力を有する者とし、これに関する判断を、在籍する高等学校等の教諭が「個人評価書」に記載すること。

(医学部医学系)

- ⑦ 高等学校等で物理「Ⅱ」、化学「Ⅱ」、生物「Ⅱ」のうち2つを履修している者

(医学部医学系)

- ⑧ 高等学校等で物理「Ⅰ・Ⅱ」、化学「Ⅰ・Ⅱ」、生物「Ⅰ・Ⅱ」のうち2つを履修している者

(歯学部、工学部応用理工系、水産学部)

ただし、当該科目の履修が不可能な者については、物理・化学・生物とも「Ⅰ」及

び「Ⅱ」を履修した者と同程度の学力を有する者とし、学力を有するか否かについては、選考時に審査する。

(工学部応用理工系)

- ⑨ 学習成績概評がA以上の者

(医学部医学系、歯学部)

- ⑩ 十分な基礎学力がある者

(工学部応用理工系)

3 入学者選抜方法

調査書、個人評価書、自己推薦書、課題論文、総合問題及び面接等の結果を総合して合格者を決定する。

なお、医学部医学系、医学部保健学系及び工学部応用理工系では、平成23年度大学入試センター試験の結果も併せて総合評価する。

また、医学部医学系では、平成23年度大学入試センター試験の受験を要する教科・科目の合計得点が810点以上で、かつ、物理Ⅰ及び化学Ⅰの合計得点が160点以上でなければ、最終合格の対象とならない。

4 出願書類の受理期間

平成22年10月12日(火)から

平成22年10月19日(火) (午後5時必着)

5 第1次選考結果の発表

平成22年11月9日(火)

6 第2次選考の期日

平成22年11月21日(日)

7 大学入試センター試験

(医学部医学系、医学部保健学系、工学部応用理工系)

平成23年1月15日(土)から

平成23年1月16日(日)

8 合格者の発表

平成22年12月7日(火) 午前9時

(医学部医学系、医学部保健学系、工学部応用理工系を除く。)

平成23年2月8日(火) 午前9時

(医学部医学系、医学部保健学系、工学部応用理工系)

(学務部入試課)

平成23年度帰国子女入試学生募集要項の発表

平成23年度帰国子女入試学生募集要項を6月18日（金）に発表しました。
概要は次のとおりです。

1 募集人員

各学部・系・学科・専攻等とも一般入試の募集人員の枠内とし、若干名

2 出願資格

日本国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、海外に在住し外国の学校教育を受け、かつ、次に掲げる基礎資格及び要件に該当するもの

(1) 基礎資格

次のいずれかに該当すること。

ア 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成23年（2011年）3月31日までに修了見込みの者

イ 外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、18歳に達したもの及び平成23年（2011年）3月31日までに18歳に達するもの

ウ 外国において、ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、18歳に達したもの及び平成23年（2011年）3月31日までに18歳に達するもの

エ 外国において、フランス共和国の大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、18歳に達したもの及び平成23年（2011年）3月31日までに18歳に達するもの

※ 上記「（1）－ア」で出願する場合は、日本と当該国における教育制度を考慮する必要があり、事前に学校教育歴及び修了又は修了見込みである高等学校（相当する学校）のカリキュラム等を確認しているの、あらかじめ学務部入試課に照会すること。

(2) 要件

次に掲げるすべての要件に該当すること。

ア 外国の学校に最終学年を含む2年以上継続して在学したこと。ただし、この年限には我が国の学校教育法に基づく課程によるものは含まない。

イ 基礎資格取得後2年以内であること。
〔平成21年（2009年）4月1日から平成23年（2011年）3月31日までの間に取得又は取得見込みであること。〕

ウ 医学部医学系を志願する者は、TOEFL-PBT、TOEFL-iBT又はTOEICを受験し、TOEFL-PBTの得点は500点以上、TOEFL-iBTの得点は61点以上、TOEICの得点は550点以上であること。

(3) その他

国家試験等の統一試験がある国では、その統一試験を受験していることが望ましい。

3 入学者選抜方法

大学入試センター試験を免除し、次の方法により選考する。

(1) 第1次選考

出願書類により選考を行う。

(2) 第2次選考

第1次選考に合格した者に対し、課題論文等及び面接により選考を行う。

課題論文等において与えられる文章には、高等学校（相当する学校）等で学習した内容（例えば、英文、数式、理科の公式など）を含むことがある。

面接では、口頭試問等を含む基礎学力の判定も行う。

4 出願書類の受理期間

平成22年（2010年）10月12日（火）から

平成22年(2010年) 10月19日 (火)
(午後 5 時必着)

5 第 1 次選考結果の発表

平成22年(2010年) 11月 9 日 (火)

6 第 2 次選考の期日

平成22年(2010年) 11月21日 (日)

7 合格者の発表

平成22年(2010年) 12月 7 日 (火)
午前 9 時

(学務部入試課)

名誉教授称号授与式の挙行

先に本学名誉教授に決定された方々（56名）に対する称号授与式が、6月1日（火）午前11時から学術交流会館講堂において執り行われました。

当日出席された29名の名誉教授一人ひとりに、佐伯総長が称号を授与した後、長年にわたるご尽力に感謝の言葉が述べられました。閉式後は記念撮影が行われました。

また、引き続きファカルティハウスエンレイソウ「レストランエルム」において、道内在住

の名誉教授と部局長・役員との懇談の場として企画された名誉教授懇談会が獣医学研究科を幹事として行われました。

懇談会には、名誉教授、部局長、役員合わせて83名が出席され、獣医学研究科伊藤研究科長の開会の辞に始まり、総長の挨拶と乾杯、担当理事による大学の状況報告、新旧の名誉教授のスピーチがあった後、逸見理事の乾杯、「都ぞ弥生」斉唱へと続き、獣医学研究科長の閉会の辞で盛会のうちに懇談会を終えました。



名誉教授称号授与式出席者一同

（総務部人事課，獣医学研究科）

学士会館の七大学展示コーナー開設セレモニー

5月28日(金)、学士会の七大学展示コーナー開設セレモニーが行われました。当日は、井口洋夫学士会理事長の挨拶の後、七大学の総長全員と井口理事長とでテープカットを行いました。その後、各大学のコーナーの前でもそれぞれの大学カラーのテープによるテープカットも行われました。

このコーナーでは、限られたスペースのなかで各大学が趣向を凝らした展示広報を行っています。北大は、上方にモニター画面を設置してDVDの再生により大学の様子を放映してい

ます。モニターの下には卒業証書(複製)を展示しています。この卒業証書は、明治13年(1880)に札幌農学校が初めて学士号を授与した13名の卒業生のなかのひとり伊藤一隆のものです。伊藤は、札幌農学校第一期生としてクラーク博士の直接の教えを受け、卒業後は我が国最初のサケ・マス人工孵化場を創設するなど、日本の水産業に多大な貢献をした人物です。学士会館に立ち寄る機会がありましたら、札幌農学校第一期生の卒業証書をぜひご覧ください。



テープカットを行う井口学士会理事長と七大学総長



札幌農学校第一期生の卒業証書が掲げられた北大展示スペース

(総務部広報課)

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、法人化後の厳しい財政状況の下、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自律性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っていくこととしています。

期限を付さない、息の長い募金活動を行うこととしていますが、平成18年から平成23年までの5年間で15億円から25億円の募金額を目指しています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

【北大フロンティア基金情報】

基金累計額 (5月31日現在)

9,879件 1,765,213,713円

教職員の寄附率23.7% (920件/3,874人)

〈5月のご寄附状況〉

法人等6社、個人130名の方々から9,261,767円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいているの方々のご芳名、総合博物館への銘板の掲載、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

なお、基金累計額には、北海道大学国際交流事業基金より移し替えた2億円を含んでおります。

寄附者ご芳名

(法人等)

柏楊印刷株式会社、北大工学部土木工学科45期卒業40周年記念、
有限責任中間法人 北海道大学出版会

(個人)

厚谷 襄兒, 五十嵐 慶, 石黒 昌道, 石橋 耀一, 伊藤 暁, 井野 智, 今井 武,
岩永 政義, 上村 聡志, 太田 芳孝, 大谷 克己, 大沼 邦匡, 大橋 宣幸, 大畑 昇,
小川 泰弘, 奥泉 尚洋, 奥田 茂久, 小内 透, 葛西 清蔵, 角 幸博, 亀澤 一昭,
川瀬 悦郎, 菊地 憲男, 北郷 新平, 木下 睦子, 栗原 潤, 小池 隆夫, 小坂 達朗,
後藤美海子, 斎藤恵美子, 庄村 喬, 白尾 誠二, 新渕 昭光, 神保 大地, 杉浦 秀一,
杉本 博之, 杉山 太子, 関 俊章, 関 秀志, 瀬田石瑠枝子, 瀬名波栄潤, 園田 保男,
高桑 亮, 高杉 重夫, 鷹野 正義, 高橋 智, 高橋 聖子, 高橋 光彦, 竹中 初男,
多田 祥治, 田中 一郎, 田中 英司, 土家 琢磨, 寺澤 睦, 堂垣内光弘, 所 伸一,
豊田 威信, 中岡 治清, 中澤 邦春, 中塚 英俊, 永埜 宗孝, 中畠 孝幸, 中村 隆,
野坂 政司, 早坂 孝一, 原田 洸, 比志島康久, 平尾 裕之, 福田 文治, 藤波 富次,
布野 栄一, 北條 紘次, 堀口 郁夫, 本多 雄二, 正木 広志, 松村 英明, 三谷 千花,
三宅 正紀, 宮坂 榮二, 宮澤 寛, 安川 尚志, 柳田 章, 山田佳世子, 山本 昭彦,
吉田 広志, 和田 孝一, 渡辺 克己

銘板の掲示 (20万円以上のご寄附)

(法人等)

北大工学部土木工学科45期卒業40周年記念

(個人)

小池 隆夫, 杉本 博之, 宮坂 榮二

感謝状の贈呈



川崎重工業株式会社様 (5月26日)



キョーリンリメディオ株式会社様 (6月14日)



有限責任中間法人 北海道大学出版会様 (6月14日)

ご寄附のお申し込み方法

① 給与からの引き落とし

申込書は、本学ホームページの「学内限定情報・システム」からダウンロードし、ご記入の上基金事務室に提出してください。

北大ホームページ > 教職員向け > 学内限定情報・システム > 北大フロンティア基金のご案内(申込書)

<http://www.hokudai.ac.jp/jimuk/gakunai/fund.pdf>

② 郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお渡します。

③ 現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、事務局財務部経理課収入担当にご持参ください。申込書は、本学ホームページから上記①の要領でダウンロードしてご記入していただくか、各部局事務担当及び事務局財務部経理課収入担当にご用意していますので、ご利用ください。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ ——— 基金事務室(事務局1階・学内電話2012 / 2017)

(基金事務室)

高等教育機能開発総合センター「S研究棟」見学会の実施

このたび、高等教育機能開発総合センター「S研究棟」の大規模改修が終了したことから、去る5月28日（金）に、建物内の見学会を行いました。

「S研究棟」は、昭和39年に建設された建物で、耐震性の問題や建物内外の老朽化のため、数年前から改修を計画しておりましたが、平成21年度に国の補正予算により改修が認められ、同年12月から工事を行っていたものです。

見学会には、理事、監事、高等教育機能開発総合センター職員、大学院メディア・コミュニケーション研究院職員、観光学高等研究セン

ター職員、事務局関係職員の約40名が参加しました。

最初に建物内の「図書資料室」において、脇田高等教育機能開発総合センター長（理事・副学長）からの挨拶、高井メディア・コミュニケーション研究院長からの挨拶があり、続いて加藤施設部施設保全課長からの改修の概要説明の後、教員室、演習室、大学院生研究室などの見学を行いました。

なお、改修の概要については、本6月号の38ページを参照願います。



挨拶をする脇田高等教育機能開発総合センター長



挨拶をする高井メディア・コミュニケーション研究院長



見学会の様子



（学務部学生支援課）

「海外留学説明会」を開催

国際交流室及び国際支援課は、5月24日（月）に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において海外留学説明会を開催しました。

海外留学説明会は、海外留学を希望する日本人学生等を対象に、広範な留学情報の提供を行い、留学を促進する目的で年5回程度開催しており、今回は第1回目の開催となりました。

説明会では、冒頭に蟹江国際交流室役員補佐から、留学は思いつきで行けば何とかなるというものではなく、実りある留学にするためには語学の準備等を事前にしっかり行うことが重要であること、また全体説明会終了後の留学体験者との個別相談などを有効に活用し、この説明会を留学を考えるきっかけにしてほしい旨の

メッセージがありました。次いで、国際支援課より、北大の留学制度の概要について説明があった後、交換留学生としてカナダ・アルバータ大学及びスウェーデン・イエーテボリ大学（経済学研究科・部局間協定）へ留学した2名の学生より、留学体験談が披露されました。また、体験談の後、ポートランド州立大学の学生から同大学の簡単な大学紹介も行われました。

国際交流室及び国際支援課は、海外留学説明会を定期的に開催する他、地域別・プログラム別説明会を充実させるなど、北大生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。国際支援課では、留学相談も受け付けていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。



留学説明会の様子



大学紹介をするポートランド州立大学学生

（学術国際部国際支援課）

「短期語学研修プログラム説明会」を開催

国際交流室及び国際支援課は、5月24日（月）に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において、短期語学研修プログラム説明会を開催しました。

今回の説明会は、冒頭に蟹江国際交流室役員補佐から留学の計画を早期に立てること、今から語学の準備をすることが非常に重要であること、また短期留学を長期留学への足掛かりとしてほしい旨のメッセージがありました。次いで、今年の夏に開催されるアメリカのポートランド州立大学、ハワイ大学、ニュージーランドのオークランド大学、韓国の全北大学校の短期語学研修プログラムについて国際支援課から説明がありました。引き続き、過去にポートランド州立大学、韓国の釜慶大学校、ニュージーランドのオークランド大学のプログラムに参加した学生から、語学研修やホームステイについ

での具体的な内容を含んだ留学体験談が披露されました。その後、北大生協から、生協が提供している「短期語学留学プログラム」についての説明がありました。説明会に参加した74名の学生は、同世代の学生の発表に熱心に耳を傾け、説明会終了後も残って個別に質問していました。これらの体験談が、留学経験のない学生たちにとって、留学をより身近なものに感じられる貴重な機会となってくれるよう願っています。

国際交流室及び国際支援課は、海外留学説明会を定期的に開催する外、今回のようなプログラム別説明会を開催するなど、北大生の留学をより身近なものとするため、情報提供に努めています。国際支援課では、留学相談も受け付けていますので、留学希望の学生にご紹介いただければ幸いです。



挨拶をする国際交流室役員補佐 蟹江教授



熱心に説明を聞く参加者

（学術国際部国際支援課）

「出入国管理制度説明会」開催

5月27日(木)、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室において、「出入国管理制度説明会」が開催されました。講師として法務省札幌入国管理局統括審査官の遠藤太郎氏をお招きし、「出入国管理制度について」と題した講義をしていただきました。

この説明会は、以前は「北海道留学生交流推進協議会」の事業の一環である「研修会」として企画・実施されていましたが、同協議会の総会が年に1回の開催となったことにともない、昨年度より「研修会」に代わるものとして、本学において実施することとしています。

説明会には本学関係職員を含む道内35機関・団体から90名が出席しました。改正される制度

等に関する説明もあり、参加者は皆熱心に受講していました。また、質疑応答でも活発な質問が出ていました。



講演風景

(学術国際部国際支援課)

遺伝子組換え実験の申請等に係る講習会を実施

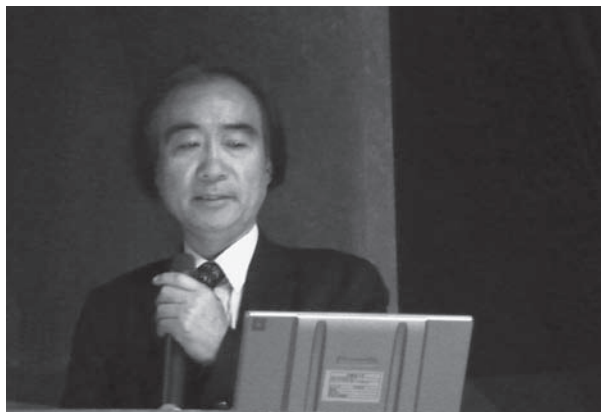
去る5月18日（火）に遺伝子組換え実験等の従事者を対象にした、遺伝子組換え実験の申請等に係る講習会をクラーク会館講堂にて開催いたしました。

この講習会は、遺伝子組換え実験等の従事者に、関係法令、本学規程等の基礎的な知識及び実験を申請するにあたっての注意事項等について理解していただくことを目的としたもので、本学規程で受講が義務付けられているもので

す。

今回の講習会には、職員・学生等合わせて約940名が出席し、遺伝子組換え実験等安全委員会委員長である、薬学研究院・有賀寛芳教授に講義いただきました。

今回受講出来なかった従事者の方は、秋にも開催を予定していますので、受講するようにしてください。



講義を行う有賀教授



会場の様子

（学術国際部研究協力課）

部 局 ニ ュ ー ス

環境科学院講義棟新営及びA棟耐震改修竣工披露式・祝賀会を挙行

前身の地球環境科学研究科の時代からの念願であった講義棟の新営工事及び学生と教員が安心して教育・研究に専念できるA棟耐震改修工事が完了し、去る6月1日(火)に新講義棟において、総長をはじめ来賓、本研究院(学院)教職員、本学院学生の約80人が参列のもと、新講義棟及びA棟耐震改修の竣工披露式・祝賀会を開催しました。

竣工式では、最初に南川環境科学院長からの挨拶、続いて佐伯総長、本学名誉教授・岩熊敏夫先生、板橋水産科学研究院副研究院長から祝辞が述べられ、嶋津環境科学院副学院長から概要説明がありました。

施設披露は、最初に竣工式会場となった講義棟(D201講義室)等が披露され、次に、耐震

改修がなされたA棟の見学が行われました。

引き続き、祝賀会が総長をはじめ来賓、本研究院(学院)教職員、本学院学生が参列のもと、講義棟(D101講義室)において行われ、本学名誉教授・西則雄先生の祝辞、香内低温科学研究所長の祝杯の発声により祝宴となりました。

会場は講義棟及び改修棟に対する期待に満ちた懇親の場となり、最後は佐々木サステイナビリティ学教育研究センター長の乾杯で、盛会のうちに終了となりました。

今回の新設・改修により、充実した環境が整えられたことで、研究・教育の両面において環境科学のさらなる発展が期待されます。



挨拶する佐伯総長



新講義棟の概要説明の様子

(環境科学院・地球環境科学研究院)

IAEA主催国際核反応データセンターネットワーク 技術会議を北大にて開催

国際原子力機関（IAEA，ウィーン，事務総長／天野之弥）の主催で国際核反応データセンターネットワーク（NRDC）技術会議が，4月21日（水）～23日（金）にかけて，北海道大学大学院理学研究院附属原子核反応データ研究開発センター（JCPRG，札幌市北区，センター長／加藤幾芳）にて開催されました。

本ネットワークは，加速器や原子炉などで取得される原子核反応に関する実験データを平和利用するために全世界で交換することを目的に作られた国際協力組織であり，冷戦時代を経て今日に至るまで40年以上に渡って活動を続けてきました。これまでに，およそ18,000件の実験で取得された実験データをEXFORという公開データベースへ収録し，原子力分野や医療分野はもとより，原子核物理や宇宙核物理などの基礎学術分野に至るまで，世界中で広く利用されています。

関連する諸問題を議論する場として，毎年，米国・フランス・オーストリア・ロシア間で交互に本会議が開催されてきましたが，日本での開催は今回が初めてでした。会議前週末のアイスランドの火山噴火にも関わらず，欧州からの参加者の欠席は2カ国（スロバキア，ハンガリー）に留まり，7カ国（インド，ウクライナ，韓国，中国，日本，米国，ロシア）と2国際機関（IAEA，OECD）から関係者が集まりました。会議日程は当初の4日間から3日間に縮小されたものの，予定されていたほぼ全ての議題が処理されました。

会議は，初日の加藤センター長とRobin Forrest IAEA核データ課長の挨拶に始まり，核データの収集と流通に関する現状分析と方針

策定を行うとともに，データの国際間での交換に関する様々な技術的課題が原子核物理学や情報科学の観点から議論されました。米国によるデータ公刊雑誌出版国別の収集分担への移行の主張が今回の最も大きな議題でしたが，今回の会議では従来通りデータ測定国別の収集分担を続けることで合意を得ることができ，ここ5年来の懸案が解決しました。これにより，データ収集活動に関する各国の研究者とデータセンターの密な協力関係が今後とも維持されることが期待されます。

なお，日本では，北大理学部を中心とする「日本荷電粒子核反応データグループ」が日本国内の加速器施設で測定された実験データを一括収集し，IAEAを経て各国の研究者に提供し続けてきました。この国際協力をより安定して継続させたいIAEAからの要請を受け，2007年4月にそれまでのグループが北大の附属組織として再編され今日に至っています。今回の会議の結果，わが国の加速器などで取得されたデータは，引き続き当センターが収集責任を負うこととなりました。



会議参加者

関連サイト

北大原子核反応データ研究開発センター <http://www.jcprg.org/>

国際原子力機関核データ課 <http://www-nds.iaea.org/>

問い合わせ：理学研究院 加藤幾芳 (011-706-2684, kato@nucl.sci.hokudai.ac.jp)

（理学院・理学研究院・理学部）

北海道大学ー ISTC 主催の「北太平洋地域地震火山噴火防災のための研究推進に関する国際ワークショップ」を開催

理学研究院地震火山研究観測センター及び自然史科学専攻では、5月10日(月)～11日(火)、学術交流会館において「北太平洋地域地震火山噴火防災のための研究推進に関する国際ワークショップ」(以下、WS)を、国際科学技術センター(ISTC)と共同で開催しました。

北太平洋地域はプレート沈み込み帯に位置しており、世界でも有数の地震・火山活動が活発な地域で、過去に多くの地震津波・火山噴火被害を受けてきました。本学はこれまで、ロシア及び米国の研究者と連携して同地域の地震及び火山噴火の発生メカニズム解明や予測技術に関する調査研究を推進してきました。今回のWSでは、これらの研究活動を今後より一層推進するための国際協力の在り方について議論することを主な目的としました。テーマが北海道の地域防災にも関連することから、一般市民や関係機関にも最新の研究成果を紹介する必要があると判断し、日露・日英の同時通訳付きの一般公開の形態でWSを実施しました。平日の開催にもかかわらず、外国招待者13名をはじめ、一般市民も含め総勢約130名の方々に参加して頂きました。また、数社の報道取材が入り、WSの様子がテレビや新聞でも報じられました。

WSは、谷岡センター長、文部科学省鈴木地震・防災研究課長、岡田理事・副学長らの挨拶

で始まり、1日目～2日目午前のセッションではロシア及びアメリカの招待研究者、気象庁・国土地理院など国内関係機関招待者から地震・火山観測体制の現状報告など合計18題の発表があり、熱心な議論が行われました。特に、アイスランド・レイヤフィヤトラヨークトル火山噴火による航空関係への火山灰被害があった直後だったこともあり、火山監視への関心の高さがうかがえました。2日目午後は、各国から今後の研究プロジェクトに関する報告と、それに引き続く総合討論が行われ、これまでの共同研究の成果と課題を再確認するとともに、今後の協力体制強化の重要性について共通認識を持つことができました。また、次代を担う若手研究者育成や防災への寄与を視野に入れた取り組みなど、今後の共同研究をさらに発展させるための提言もありました。

閉会後、一般参加者を対象に行ったアンケート調査では、「各国研究者の意気込みを感じた」「国際協力の重要性が認識できた」といった感想や、防災に役立つ予知研究への大きな期待が寄せられました。

最後に、今回のWS開催にあたり、共催の文部科学省、後援の気象庁、国土地理院、北海道総合研究機構地質研究所の各機関等、関係各位には大変お世話になりました。ここに記して感謝申し上げます。



ワークショップの様子



参加者一同による記念撮影

(理学研究院附属地震火山研究観測センター地域防災情報支援室)

TEMM（日中韓 3 カ国環境大臣会合）学生会議への参加

去る5月22日（土）、23日（日）の両日に千歳市及び苫小牧市において、TEMM（日中韓 3 カ国環境大臣会合）が開催され、その一環として地元学生による 3 カ国の環境大臣への発表が行われました。

本会議には、苫小牧工業高等専門学校、千歳科学技術大学（以下「高専」、「CIST」という）と共に、公共政策学教育部からは、日本人学生（3 名）、中国人留学生（4 名）及び韓国人留学生（2 名）の計 9 名が参加しました。

発表に先立ち、事前準備として、ウェブ会議による顔合わせやメーリングリストを介した E-mail ディスカッションが行われました。発表前日の22日は、苫小牧市内のホテルにおいて発表に向けた集中ディスカッションが行われ、夜遅くまで続いた議論の結果、テーマを「各国の子供と大人の二世代に対して効果的な環境教育を行う必要性和その方法」に設定し、発表することに至りました。

23日の発表当日には、日中韓 3 カ国のポスター作成と各国大臣への発表について、日本語

版は高専とCISTが、中国語版は中国人留学生が、韓国語版は韓国人留学生が担当し、日本人学生は韓国版及び全体のサポートを行いました。

これらの発表に対して、各国の大臣ともに、参加学生の説明に熱心に耳を傾けられ、環境教育の具体的な方法についての提案に、率直な意見や感想をいただきました。



3 カ国の大臣への発表を終えての記念撮影
(写真提供：公共政策大学院 修士課程 鳥越浩一)

(公共政策学教育部・公共政策学連携研究部)

スラブ研究センター公開講座「地域大国比較の試み：ロシアを中国やインドと比べたら何が分かるか？」が終了

スラブ研究センターの今年度の公開講座が、「地域大国比較の試み：ロシアを中国やインドと比べたら何が分かるか？」をテーマに5月10日（月）から31日（月）まで7回にわたって開催されました。スラブ研究センターでは、2008年度より新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」（領域代表者 田畑伸一郎）が開始されました。このプロジェクトでは、ロシア、中国、インドなどのユーラシアの地域大国を外交、内政、経済、歴史、社会、文化など多角的な視点から総合的に比較する試みがなさ

れています。今年度の公開講座では、このプロジェクトに参加している研究者を講師に招いて、研究成果の一端を分かりやすく解説しました。例年のスラブ研究センターの公開講座と異なる大きな特徴は、講師に、スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧地域）の研究者だけでなく、中国やインドの専門家が多数含まれたことでした。

受講者数は87名を数えました。受講者に対するアンケートにより、中国やインドに対する関心が予想以上に高かったことがわかりました。



1 回目の講義の始まりの様子



熱心に聞き入る受講者

（スラブ研究センター）

第17回ファーマサイエンスフォーラムー北海道大学領域融合研究ユニット心身相関学研究室キックオフシンポジウムを開催

薬学研究院では、人類の福祉及び科学の発展に寄与する創薬科学及び生命科学分野での研究を実施するとともに、これらの分野の第一線で活躍できる研究者の育成に努めています。その一環として、これら分野で活躍する一流の研究者を招聘して講演と活発な議論の場を提供することで、広く「薬」の研究に携わる研究者間の交流を深めることを目的として、毎年、ファーマサイエンスフォーラムを開催しています。

特に、本年度は、文部科学省特別経費により、薬学研究院、医学研究科、教育学研究院が共同して平成22年度より5年間の予定で開始する「ストレスによる心の病の革新的治療を目指した領域融合研究推進事業」の中核を担う心身相関学研究室のキックオフシンポジウムとして、「心のいたみ・お腹のいたみ」と題したシンポジウムを、去る5月14日（金）、薬学部臨床薬学講義室において開催しました。

近年、社会的なストレスの増加に伴い、うつ病や心身症などの「こころ」の病の増加が社会的にも問題となっています。また、胃腸に原因となる異常が見つからないのに、痛みや便秘異常が生じる機能的消化管障害も、ストレスがその発生原因の一つとして考えられています。これらストレスによる「心」や「お腹」の病に対する治療薬創製に向けた研究の重要性に鑑み、これらの研究領域の第一線で活躍する学外の研究者5名を講演者として招聘し、さらに薬学研究院、医学研究科、教育学研究院の5名を加えた計10名により講演及び質疑応答が行われました。

第17回 PharmaScienceフォーラム
北海道大学 領域融合研究ユニット 心身相関学研究室キックオフシンポジウム

心のいたみ・お腹のいたみ	
池田和隆（京都府立医科大学） 「オピオイド作用個人差の遺伝子メカニズム」	井上 猛（北海道大学） 「恐怖条件付けストレスに対するリチウムの効果」
尾崎紀之（金沢大学医薬保健研究） 「胃の痛覚過敏に関わる一次知覚神経の感作機構」	武田宏司（北海道大学薬学研究院） 「食欲不振の病態と臨床へのアプローチ」
加藤総夫（東京慈恵医科大学） 「慢性的痛覚過敏におけるシナプス可塑性」	南 雅文（北海道大学薬学研究院） 「痛みによる不快情動生成におけるextended amygdalaの役割」
福土 馨（東北大学医学系研究科） 「過敏性腸症候群：脳腸相関と情動のモデル」	室橋春光（北海道大学教育学研究院） 「発達障害からみたこころとからだ」
古屋敷智之（京都大学医学研究科） 「ストレスによる抑うつ行動における炎症関連分子の役割」	吉岡充弘（北海道大学医学研究科） 「セロトニン神経系と情動反応」

ポスター

講演者の方々には、最新の研究成果に基づく中身の濃い講演をして頂きました。学術的レベルの高さと、臨床的にも重要な課題であることを反映して、当日は、薬学研究院、医学研究科、教育学研究院の教員・大学院生・学部生70名超に加え、道外からも製薬企業研究者（5社10名超）の参加があり、大変活発な質疑応答・議論が繰り広げられ、盛会のうちに会を閉じました。

（薬学研究院・薬学部）

薬学部でメンタルケア講習会を実施

薬学部では、5月24日(月)14時45分から、高等教育機能開発総合センターN1教室において、学部1年次生を対象としたメンタルケア講習会を開催しました。

この講習会は、メンタルケアについての理解・関心を深め、学生が快適なキャンパスライフを送れるよう実施したものです。当日は、本学保健センターカウンセラーで臨床心理士である、武田弘子氏を講師に迎え、「大学生のメンタルヘルス」という演題で行われました。

講習会では、「心の健康とは」、「アルコール

と自殺」などについて説明があり、講義中に「心理疲労度チェック」、「うつ病自己評価尺度検査」を学生に実施し自己採点をして現状を把握してもらいました。当日は、80名の参加者があり、武田氏の説明を熱心に聴き入っていました。

参加者からは、「自分の精神状態を客観的尺度から分析できて良かった」「良い睡眠をとる方法がよくわかった」「自分のことを見直すきっかけになった」「2つの検査がよかった」などの感想が多く寄せられました。



熱心に聴き入る薬学部1年次生



保健センター武田カウンセラーによる講習会の様子

(薬学研究院・薬学部)

環境科学院で北大祭・研究施設公開「もっと身近に環境科学」を開催

環境科学院では、6月5日（土）、6日（日）の2日間、北大祭・研究施設公開「もっと身近に環境科学」を開催しました。

今回は、例年に引き続き4回目の開催となりましたが、企画の内容は、5名の教員・学生が研究内容をわかりやすく紹介する「環境サイエンストーク」、実験の一部を体験する16のテーマによる「環境サイエンスパフォーマンス」、環境科学院全23コースの研究内容を紹介する「パネル展示」などが行われました。

開催期間中、札幌市内・近郊、道外から親子連れの小学生や中・高・大学生・一般の方など

631名が訪れ、体験型の研究施設公開を楽しみました。

来場者にアンケート調査を実施したところ、87名の方から回答をいただきましたが、「何について研究されているのかが、よくわかった」「実際に体験できるものが多かったので、面白かった」「太陽光パネルの説明が丁寧で分かりやすく、感心した」などの評価をいただきました。

今後とも、企画の内容に改善を加え、市民の方々に喜ばれる研究施設公開を開催していきたいと考えています。



環境サイエンストーク



環境サイエンスパフォーマンス



太陽光パネルの紹介



太陽光発電の発電量等モニターの紹介

（環境科学院・地球環境科学研究院）

第2回人文学カフェ「村上春樹『1Q84』を読む －物語をかきかえる－」を開催

文学研究科では、5月15日(土)紀伊國屋書店札幌本店1Fインナーガーデンにおいて、一般市民の方々を対象として第2回人文学カフェ「村上春樹『1Q84』を読む－物語をかきかえる－」を開催しました。市民との対話交流型アウトリーチ活動としては、理工系の学問を中心としたサイエンスカフェなどが数多く開催されていますが、文学研究科においても広く市民の知的関心に応えうる研究が数多くなされています。人文学カフェはそのような研究を広く市民に向けて発信し、質疑応答や意見交換を通して大学と社会の交流を促進する目的で企画されたものです。

今回の人文学カフェでは、今話題の小説『1Q84』をテーマに、文学研究科・映像・表現文化論講座の中村三春先生に、「物語の力」という視点から村上文学の魅力の源泉を語っていただきました。当日は120名にのぼる方々に

来場いただきましたが、みなさん熱心に中村先生のお話に聞き入り、質疑応答のコーナーでは数多くの質問がよせられました。村上文学ファンの鋭い質問に中村教授も思わずたじろぐ場面もあり、くつろいだ雰囲気の中、盛況のうちに終了しました。



(文学研究科・文学部)

経済学部で「北海道経済が発展するための原動力は何か」をテーマに講演会を開催

経済学部では、5月11日（火）午後1時から、人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、北海道電力株式会社企画本部・総合研究所経済グループの鍋島芳弘氏（昭和58年本学部卒）を講師に招き、経済学部1年生を対象にして講演会を開催しました。

鍋島氏は本学部卒業後、北海道電力株式会社に就職され、道内の営業所勤務を経て、昭和63年以降、同社総合研究所で研究・調査活動を行ってこられました。特に、道州制実現への課題や北海道新幹線札幌延伸による道内への経済効果などの、北海道経済に関わる様々な問題に積極的に取り組んでおられます。学会活動を通じて同社とのパイプを持つ経済学研究科・木村俊一教授の企画で今回の講演会が実現しました。

鍋島氏は「北海道経済が発展するための原動

力は何かー食クラスターの強化による自律的发展ー」と題して、約1時間15分にわたって講演されました。北海道経済の現状分析に始まり、人口減による右肩下がりの展望しか開けない中で、それでもなお強みを発揮できる産業の動向を紹介し、北海道のもつポテンシャルをいかに高めていけばよいかについて、豊富な実証データをもとにわかりやすく解説いただきました。約200名の1年生は、北海道経済の現状を再認識すると同時に、日本経済の行方や自分自身の未来を考える有意義な時間となったようです。講義後に提出された感想文には、経済学を学ぶ重要性をあらためて感じた、北海道の経済レベル向上のために何をなすべきかを広い視点で今後学びたい、といった感想が数多く出され、普段の講義とはまた違う刺激を受けたことがうかがわれました。



講演する北海道電力株式会社企画本部・
総合研究所経済グループ鍋島芳弘氏



熱心に聞き入る学生

（経済学研究科・経済学部）

会計専門職大学院で公認会計士制度説明会を開催

経済学研究科会計情報専攻（会計専門職大学院）では、日本公認会計士協会北海道会の協力を得て、5月21日（金）、人文・社会科学総合教育研究棟W103教室において、公認会計士制度説明会を開催しました。

この説明会は、公認会計士の業務の実際及び最新の資格試験ならびに監査法人への就職状況についての情報を学部生と大学院生に提供することで、広く本学の学生に公認会計士についての正しい認識をもってもらい、その資格取得を目指す学生には具体的な指針を提供することを目指しています。今年は27名の学部生と大学院生の参加を得ました。

説明会では、柴口幹男日本公認会計士協会北海道会広報委員会委員長の司会進行により、まず森川潤一日本公認会計士協会北海道会会長に

よる説明会の趣旨説明と米山祐司会計専門職大学院院長代理による挨拶の後、齊藤寿徳日本公認会計士協会会員が公認会計士業務と平成21年度試験合格者の状況と採用状況について説明しました。

さらに、昨年に公認会計士試験に合格して今年度から会計士業務に携わっている松本拓也日本公認会計士協会北海道会準会員と竹田有沙日本公認会計士協会北海道会準会員から、ご本人の公認会計士試験の受験体験と現在の実務体験についてのお話がありました。その後、質疑応答を行い、参加学生から熱心な質問を受けました。アンケートでは、業務内容や試験体験を直接公認会計士の方から聞くことで具体的なイメージを得ることができたとの声が寄せられていました。



公認会計士業務等の説明をする
日本公認会計士協会会員齊藤寿徳氏



質疑応答の様子

（経済学研究科・経済学部）

工学部で講習会「ワークショップをはじめよう!!」を開催

安全衛生管理室は、今年度はワークショップという手法を用いて、人々が語り合うことを通して消防体制に関する問題を解決していくことを1年間を通して取り組んでいきます。

その一環として5月26日（水）に高等教育機能開発総合センター科学技術コミュニケーション教育研究部（CoSTEP）客員准教授の渡辺保史氏をお招きしてワークショップについての考え方を教えていただき、この手法を広く知ってもらうことを目的に講習会を開催しました。

参加者は12名あり、工学部だけでなく、他学部の方や学外からもみられました。

まず、ワークショップとは、共同作業（アクティビティ）に自ら参加・体験し、相互作用の中で、学習し合い、創造していくスタイルであるとのレクチャーを受けました。

最初のアクティビティとしては、LEGOブロックで参加者に任意で作品を作ってもらい、その作品の作成説明書を書き他の参加者に手渡すことにより、手渡された人が同じものを作製してもらうということをしました。実際に参加してみると、なかなか難しく、ほとんどの方が正しく伝えられず、制作者が意図した通りに作ることが出来ませんでした。

その後、このアクティビティを通しての体験

について4人グループに分かれて語り合いました。発見したこととしては、「言葉の多義性」「意味を共有する大切さ」「手を動かすことによって実感できる」などが上げられ、疑問に思ったこととしては、「上手に伝える方法は何か」「意図しない方向に進んでしまったときにどうするか」などがあがりました。

休憩を挟み、渡辺先生からレクチャーがあった後、6月4日（金）に開催したワークショップ「消防体制をデザインする」をよりよく行うためのアイデアを4人グループになって出し合い、全体でアイデアを整理しながら議論し合うアクティビティを行いました。

その中で「形式張らないことをアピールした方がよい」「話しやすい仕組み作りをする必要がある」「話題を可視化して、分類や関係性が見えるようにすべき」などの意見が出され、次につながるものとなりました。

最後に参加者の方々にアンケートを実施したところ、「渡辺先生からレクチャーのあった自分事と他人事の間にある“自分たち事”をもっと広めたい」「人に伝えることの難しさを実感した」などの声が聞かれ、参加者の皆さんにも心に残る講習会となりました。



レクチャーをする渡辺先生



アイデアを整理している様子

（工学院・工学研究院・工学部）

日本ハムファイターズ, 北海道大学病院院内学級を訪問

5月31日(月)に、北海道日本ハムファイターズの監督と選手達が北海道大学病院を訪問し、院内学級に通級する子供達と小児科に入院する子供達を激励しました。

院内学級は、入院中の子供達が通級するために、札幌市立幌北小学校と北辰中学校の病虚弱学級として北大病院内に設置されているものです。

この訪問は、北海道大学病院スポーツ医学診療科が北海道日本ハムファイターズのチームドクターであるという縁から、日本ハムファイターズからのご提案により実現し、本年度で4回目を数えます。

訪れたのは梨田昌孝監督、小谷野栄一選手、糸井嘉男選手、ダルビッシュ有選手の4名です。監督と選手は福田諭病院長への挨拶の後、激励の会場である病棟のスポーツ運動療法施設へと向かいました。

会場では、監督と選手の自己紹介・子供達の質問タイムの後、選手とのキャッチボール・記念撮影・サイン会等のふれあいの時間となりました。監督と選手の皆さんは子供達に大変やさしく接してくれるとともに、暖かい励ましの言葉をかけてくれました。

院内学級の子供達から監督と選手達に応援旗が手渡され、監督からは、子供達へファイターズグッズのプレゼントがありました。

スポーツ運動療法施設での激励会の後、監督と選手達は小児科病棟を訪れ、会場に来ることができなかった子供達の病室をひとつひとつ訪れ、入院中の子ども達を激励してくれました。

生徒達はこれから病気と闘っていく上での勇気と、かけがえのない思い出をもらったことと思います。



挨拶をする福田病院長



梨田監督による院内学級生徒激励



選手と子供達の交流の様子



病院長室での記念撮影

(北海道大学病院)

看護週間ー「看護の日の夕べ」ほか様々な催しを実施

毎年5月12日（ナイチンゲール生誕日）は「看護の日」、また、この日を含む1週間は「看護週間」として制定されています。本院では今年も、看護の重要性について理解を深めようと様々な催しが行われました。

1階アメニティホールでは病棟の様子を紹介した写真パネルのコーナーでは、大勢の方が足を止め、ひとつひとつに見入っていました。

また、5月12日（水）には「第20回看護の日の夕べ」が西村正治副病院長の挨拶で開催され、札幌聖心女子学院のオーケストラ部・コーラス部及び北海道大学チルコロ・マンドリネスティコ「アウロラ」によるミニコンサートが上演されました。

札幌聖心女子学院による、人気アニメ主題歌

の合唱、ヴァイオリンやピアノの演奏等の演目があり、会場は大変盛り上がりしました。

北大「アウロラ」による演奏では、大勢の観客が、アメニティホールに響き渡るマンドリンの澄んだ音色に魅了されていました。

この講演の様子は、本院アメニティホールに設置されたライブカメラを通じて、入院患者さんのベッドサイドで流れる無料放送でも放映されました。

「第20回看護の日の夕べ」は、盛況の中、川畑いづみ看護部長の挨拶で幕を閉じました。

看護週間にちなんだ催しは、今年で20回という節目を迎えましたが、「看護」という言葉のもつ重さを再認識する貴重な機会として定着しています。



閉会の挨拶をする川畑看護部長



挨拶をする西村副病院長



北大「アウロラ」によるミニコンサートの様子

（北海道大学病院）

「地質の日」・「国際博物館の日」記念企画展示「わが街の文化遺産—札幌軟石 歩いた！探した！見つけた！」を開催

総合博物館 1 階「知の統合」コーナーにおいて、標記企画展示を 4 月 27 日（火）～5 月 30 日（日）の日程で開催しました。

昨年の「地質の日」記念企画展示「支笏火山と私たちの暮らし」では、約 4 万年前に活動し我が国最大級の巨大噴火を生じた支笏火山の生い立ちや火山災害の紹介を主体に展示しました。この大噴火は札幌・千歳・苫小牧方面を広く覆った膨大な火砕流や知床半島にまで及んだ降下火砕堆積物（火山灰）をもたらす一方で、札幌軟石という恵みもありました。

今回の展示では、支笏火砕流に由来する札幌軟石（溶結凝灰岩）に焦点を当てた展示となっています。札幌軟石は明治初期から建築素材として様々に利用され、重厚で風格のある札幌の街づくりに貢献してきました。往年よりも少なくなったとはいえ、今も街なかにその独特な姿を見つけることができる「わが街の文化遺産」です。展示では、支笏火砕流と札幌軟石の成り立ち、札幌軟石の採掘や運搬の歴史、軟石による建物や街づくり、札幌の軟石建築文化を支えた石工さんの高度な技術など今に残る産業遺産を紹介しています。また、1,700 件を超える軟石物件を確認した市民グループのフィールドワークの成果、珍しい軟石造形品などを展示しています。

関連行事として、5 月 1 日（土）には総合博物館南側ウッドデッキでワークショップ「札幌軟石クラフトに挑戦！」を、また 1 階「知の交流」コーナーでは土曜市民セミナー「札幌軟石 いま・昔」を開催しました。ワークショッ

プでは、親子連れら約 30 名がのみなどを使って軟石の加工品作りに挑戦しました。講演会では、「札幌軟石は支笏火山の贈り物」（若松幹男氏：北海道地質調査業協会）、「札幌の軟石文化」（岩本好正氏：札幌軟石文化を語る会・地蔵守氏：石工の会）、「歩いた！探した！見つけた！札幌軟石」（中村祐子氏：札幌建築鑑賞会）の講演（3 件）とパネルディスカッションを行い、多数の参加者（約 80 名）の参加者があり、札幌軟石に対する市民の皆さんの関心の高さがうかがえました。さらに、5 月 8 日（土）には貸し切りバスで、南区石山の藻南公園（かつての採掘切り羽跡）・現在の軟石採掘現場・石山市街の軟石建物などの見学ミニツアー「札幌軟石ウォッチング」を行いました。あいにくの小雨まじりと三分咲きの桜も縮こまる寒さでしたが、約 65 名（応募は 100 名を超えた）の参加者が時間を気にしながらも盛りだくさんの内容を熱心に見学しました。さらに、参加した子供たちが採掘現場で軟石の切り出し体験もしました。

今回の企画展は、博物館のこれまでの企画展とはかなり趣きを異にし、市民グループが主体となり博物館が共催するという初の試みであり、学内外からも高く評価されています。本展示は僅か 1 ヶ月程度の短期間の展示でしたが、新聞やテレビなどのマスコミ報道もこれまで以上に多数行われ、札幌市民に対する宣伝効果が大きかったと思われます。期間中の入館者数は 7,242 人に上り、好評を得た博物館企画展示となりました。



展示会場の様子



見学ミニツアーの様子

（総合博物館）

附属図書館で企画展示「北方古地図展」第一期 「北海道図の変遷」を開催

5月17日（月）から、附属図書館本館正面玄関ロビーにおいて、企画展示「北方古地図展」第一期「北海道図の変遷」を開催しています。（全2期）

附属図書館は、北方地域に関する多くの資料を所蔵していますが、なかでも北海道（蝦夷）、カラフト、千島の地図・図類は系統的に収集しており、大変興味深いコレクションのひとつになっています。

第一期は「北海道図の変遷」と題して、江戸初期から明治初期にかけて作成された特色ある北海道（蝦夷）図とその関連資料を展示し、図の変遷をたどりながら北海道の歴史を概観し紹

介します。

最も古い蝦夷図の一つである松前藩の『元禄国絵図』，林子平『蝦夷国全図』，伊能忠敬『伊能氏実測北海道図』，松浦武四郎『東西蝦夷山川地理取調図』，三角測量により初めて作成された開拓使の『北海道実測図』など、北海道の歴史を伝える地図をパネルで展示しています。

第一期は8月31日（火）までの開催ですが、引き続き9月1日（水）からは、第二期「北方図の変遷」（蝦夷地・カラフト・千島）を開催する予定です。



展示風景



松浦武四郎「東西蝦夷山川地理取調図」



「元禄国絵図」



松浦武四郎「石狩日誌」

（附属図書館）

定山溪中学校修学旅行事前学習を大学文書館で実施

5月21日(金)、札幌市立定山溪中学校3年生6人が、担任の吉村晶子先生、副担任の中倉雅子先生、歌川雅也先生の引率のもと、岩手県への修学旅行に向け、事前学習のため来学しました。

当日は、大学文書館において、「花巻・東京・札幌－佐藤昌介少年の旅－」と題し、岩手県花巻市出身で札幌農学校第1期生である佐藤昌介について、特別授業を行ないました。



佐藤昌介クイズの最中

特別授業では、下記の5つのクイズに沿って、佐藤昌介(1856-1939)が13歳～19歳にかけて歩んだ道程(花巻、東京、札幌)をたどりました。

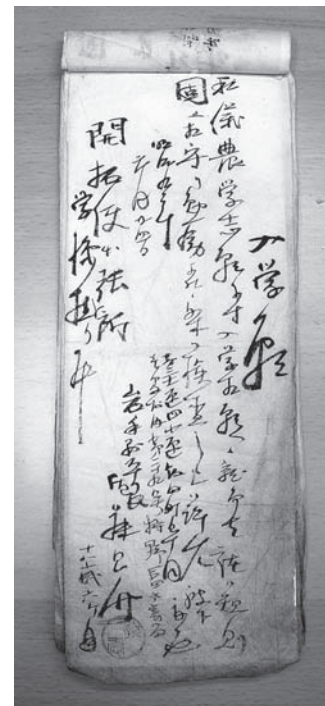
- (1) 13歳まで昌介は、花巻で何をしていた？
- (2) 14歳の昌介が、盛岡の藩校 作人館で勉強した科目は何？
- (3) 14歳の昌介が、東京へ旅立ったのはなぜ？
- (4) 15歳の昌介が、横浜へ引っ越したのはなぜ？
- (5) 19歳の昌介が、札幌農学校へ入学したのはなぜ？

クイズの答え合わせでは、定山溪中学校3年生の塚田麻希さん、工藤香菜さん、渡会利奈さん、高橋美咲さん、陰山紘太君、坪井孝矢君が、佐藤昌介の歩んだ道程の理由を、時代背景に照らして考えながら、答えてくれました。

クイズ終了後は、続けて、佐藤昌介にまつわ

る資料見学会を行ないました。資料見学会では、札幌農学校入学後の佐藤昌介について、

(Ⅰ)札幌農学校生、(Ⅱ)札幌農学校教官の各時期の関係資料を陳列しました。(Ⅰ)では、佐藤昌介が提出した「入学願」や、佐藤昌介がW. S. クラークから添削を受けた受講ノート(英文)、(Ⅱ)では、佐藤昌介講義「殖民論」の直筆原稿、佐藤昌介の講義を受けた学生(半澤洵、逢坂信吾)の受講ノート(和文)のほか、当時の写真で彩りました。



佐藤昌介「入学願」(1876年)

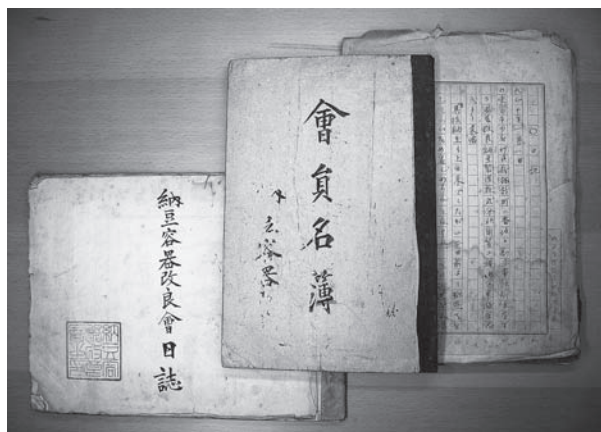
今後も、大学文書館では、修学旅行事前学習等で北海道大学の歴史を学びたい皆さんに、特別授業・資料提供等で支援していきます。

(大学文書館)

農学部応用菌学講座・「半澤式納豆」関係資料を 大学文書館で新たに受贈

5月15日（土）、大学文書館では、農学部応用菌学講座関係資料69点を、同講座において第2代教授佐々木西二に師事された佐々木博氏、堀田国元氏から新たにご寄贈いただきました。

この度、受贈した資料は、佐々木博氏、堀田国元氏が「近代納豆の幕開けと応用菌学」の執筆にあたり、参考資料・文献とした応用菌学講座の沿革資料です。佐々木西二教授の記念誌（『わが心の微生物』1993年、『縁の下の方持ち』1998年）のほか、応用菌学講座の初代教授半澤洵（1878-1972、札幌農学校第19期生）が推進した「半澤式納豆」にまつわる一次資料が豊富です。

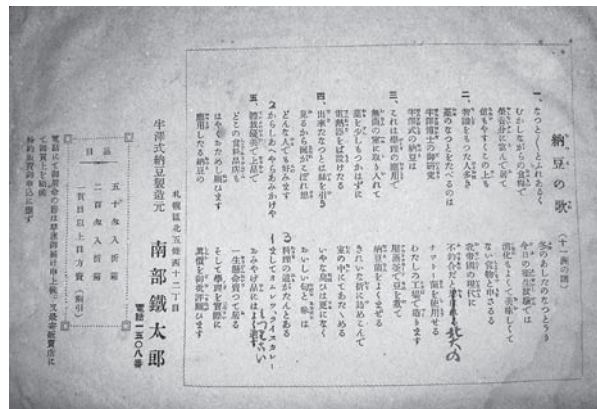


納豆容器改良会日記・会員名簿・日記

半澤洵は、1918（大正7）年から、稲藁付着菌に依存した自然醗酵による不衛生な納豆製造法ではなく、純粋培養した納豆菌による科学的・衛生的な納豆製造法の普及に尽力しました。半澤洵の理念のもと、応用菌学講座では納豆菌の純粋培養に取り組み、大豆が配給制となった戦時中まで国内をはじめ中国・ブラジル

等へも納豆菌の頒布を続けていました。

受贈した資料には、①半澤洵が収集した「半澤式納豆」の広告記事・チラシ・納豆包装紙、②衛生的な納豆容器として経木の利用を推進した「納豆容器改良会」（1919年創設、会長半澤洵）の日記・日誌・会員名簿・会計簿、③納豆容器改良会機関誌『納豆』、④半澤洵手稿「納豆の容器を速かに改良すべし」（1920年）などがあります。



半澤式納豆のチラシ「納豆の歌」

①には、「これは学理の応用で 圧力釜で豆を煮て 無菌の室に取り入れて 納豆菌をよくまぜる 藁を少しもつかはずに きれいな折に詰めこんで 電熱器をば設けたる 室の中にあたためる」と半澤式、納豆製造法を説明した「納豆の歌」（南部鐵太郎作歌）が印刷されたチラシもあります。このチラシには、半澤洵が歌詞を朱筆添削した跡も残っています。

今後、受贈資料については、大学文書館において大切に整理・保管し、沿革資料として研究・教育活動に幅広く活用いたします。

（大学文書館）

田邊至油彩画（1913年）を大学文書館で受贈

5月17日（月），大学文書館では，田邊至油彩画1点を，梁田政方氏からご寄贈いただきました。受贈した油彩画（23×31cm，板）は，1913（大正2）年，田邊至が梁田政輔氏（政方氏の祖父，北海道庁長官官房属）のために，第二農場のモデルバーンを描いて贈ったものです。油彩画の右下には，下記のサインが記されています。

To Mr. Yanada
I. Tanabe
1913.

田邊至（1886－1968）は，1904（明治37）年東京美術学校西洋画科に入学し，黒田清輝に師事しました。1910（明治43）年同校卒業後は研究科に進学し，1911年には同校助手となり，助教授（1919年～），教授（1924年～）と昇任し，1944（昭和19）年まで母校で教鞭を執り続けました。

また，田邊至は，北大黒百合会とも非常にゆかりの深い画家でした。草創期の黒百合会では，有島武郎が，中央画壇から指導的作品を「参考品」として取り寄せることを企画しました。第5回黒百合会展覧会（1912年10月）では，田邊至が「参考品」として油彩画「停車場の夕」を出品しました。その後も，田邊至は黒百合会への出品を続けました。その功績について，能勢眞美（1897－1982）は，「田邊，有島両氏の黒百合会出品は，黒百合が其の後年々いゝ参考品をもつて来る機縁となりまして札幌の画壇にとつては実にありがたいことになったのでありました」と回想しています（『黒百合会回顧録』1931年，91頁）。

今後，大学文書館では，受贈資料を大学沿革資料として大切に保管するとともに，展示等により活用いたします。



田邊至油彩画（1913年筆）

（大学文書館）

工学部所蔵沿革資料を大学文書館に移管

5月27日（木）及び6月11日（金），大学文書館では，大学院工学研究科・工学部保管沿革資料306点の移管を受けました。移管を受けたのは，工学部設置前の1922（大正11）年から1970年代までの文書資料が中心で，教授会・学部長選挙・学部改築・学部改革・入学・卒業・学位授与に関する文書や，工業教員養成所関係写真などです。

特に，工業教員養成所については，現在まで一次資料がほとんど確認されておらず，卒業記念写真や卒業生個人，施設，授業風景などの写真が納められた2冊の写真アルバムは，工業教員養成所の状況を示すたいへん貴重な資料です。

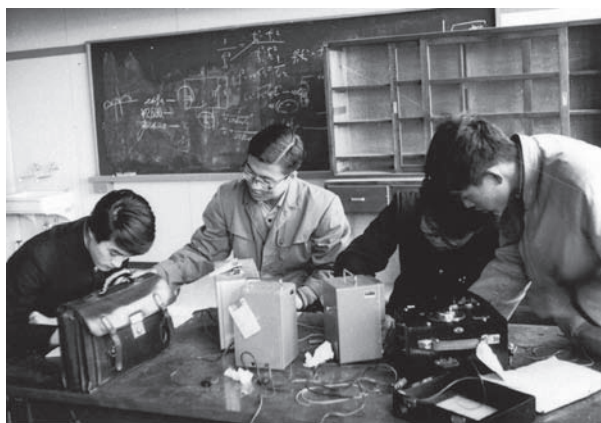
工業教員養成所は，戦後高度経済成長期の真っ直中の1961～69年に開設されていました。日本政府は，この時期にさらなる工業化を目指し，初級技術者養成のために工業高校の拡充を図りました。そのため，工業高校の工業科目担当教員の増員が必要となり，文部省が工業教員

養成所を全国9大学に付設しました。

北海道大学には，1961（昭和36）年5月に電気工学科・機械工学科・工業化学科が設置されました。入学定員は各科40名，修業年限は3年，入学資格は高校卒業者でした。所長は工学部長が兼任し，多くの工学部教官が非常勤講師を務め，実験設備も工学部のものを利用していました。開所していた8年間に596人の卒業生を送り出しました。現在は，工学部建物（Q棟・R棟）東側のメインストリート沿いに「工



工業教員養成所機械工学科第1期生卒業記念(1964年)



工業教員養成所の授業風景

業教員養成所記念碑」が立っています。

大学文書館では，今回移管を受けた306点の資料について，個人情報に十分留意し，大切に保管してまいります。

大学文書館では，常時，部局等の事務文書，研究室等の沿革関係資料，大学に関わる個人の資料など，大学の歴史に関わる文書・資料の収集・整理・保存を進めています。文書・資料等を廃棄する場合，または取り扱いにお困りの場合には，ご一報下さい。

（大学文書館）

お知らせ

施設整備の概要

○高等教育機能開発総合センター「S研究棟」改修

今回の改修工事においては、当該建物が耐震性が低く経年劣化による老朽化が著しいことから、耐震補強を行い安全で安心な教育研究環境の整備を行うと共に段差解消、玄関スロープ取り付けやエレベータ設置などバリアフリーに配慮しています。

また、断熱材の施工、省エネ型照明器具や個別空調等を採用し、省エネルギーにも配慮しています。

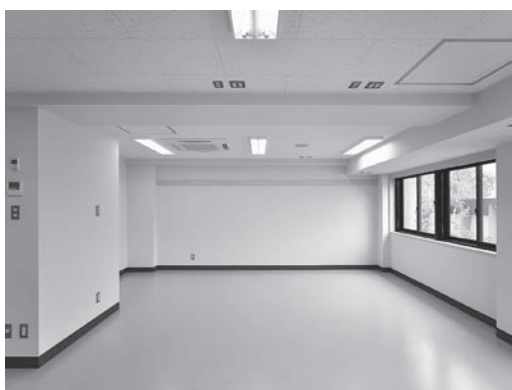
- ・工事名称：高等教育機能開発総合センター（S棟）改修工事
- ・構造規模：鉄筋コンクリート造 地上4階 延べ面積3,611㎡
- ・完成：平成22年5月



西面外観



4 階教員室



3 階院生研究室

○インフォメーションセンター新営

本施設は、北大を紹介する情報提供の場所として正門横の守衛室の跡地に建設しました。

建物は、木造平屋建てとし木を生かしたデザインで、全体に安らぎの空間を演出しました。

また、環境への配慮として、自然エネルギー（地中熱）を活用した暖房、学術交流会館屋上に設置した太陽光発電装置による電力の一部利用、LED照明の採用等、環境・省エネ対策を行っています。

センター内は、専任スタッフが配置される「インフォメーションカウンター」を中心に、ショップ、カフェ、ホール、ギャラリー等による構成となっている他、ベビーシートを装備した多目的トイレを設置するなど、バリアフリーにも配慮しています。

- ・工事名称：インフォメーションセンター新営その他工事
- ・構造規模：木造平屋建 地上1階 延べ床面積324㎡
- ・完成：平成22年5月



南面外観



北面外観



ホール

(施設部)

表 敬 訪 問

〈国内〉

月 日	来 訪 者
22. 4. 2	千歳科学技術大学長 川瀬正明 氏



千歳科学技術大学長 川瀬正明 氏

北大時報No.674（平成22年5月）P.50掲載時の写真に誤りがありましたので、再掲させていただきます。関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

（総務部広報課）

〈海外〉

月 日	来 訪 者	目 的
22. 5. 21	嶺南大学校（韓国）朱 祥佑 国際交流担当副学長	両大学の交流についての懇談
22. 5. 25	アラスカ大学（米国）エツコ キムラ ピーターソン 氏, ポール クレイチ 氏	親善コンサート開催のため
22. 5. 26	米国教育省 Anthony W. Miller 副長官	本学キャンパス視察のため
22. 5. 28	国立中興大学（台湾）邱貴芬 人文社会センター長	協定に関する打合せ
22. 5. 31	中国・日本韓国訪問団 索麗生 呉作人国際美術基金会理事長 一行	大学運営にかかる調査

嶺南大学校（韓国）朱 祥佑 国際交流担当副学長
（右から2人目）アラスカ大学（米国）エツコ キムラ ピーターソン 氏
（左から2人目）， ポール クレイチ 氏（右から2人目）

表 敬 訪 問



米国教育省Anthony W. Miller 副長官
(左から4人目)



国立中興大学（台湾）邱貴芬
人文社会センター長（手前左側）



中国・日本韓国訪問団 索麗生
吳作人国際美術基金会理事長（手前中央） 一行

（学術国際部国際企画課）

同窓会との交流

－工学部同窓会総会－

5月29日(土)、約500名の同窓生が参加し工学部同窓会第62回総会が「東京プリンスホテル」で開催されました。当日、総会に引き続き行われた記念講演では、佐伯総長が「これからの北海道大学」と題して、北大の近況報告、大学の国際化の重要性などについて話をされました。また、特別記念講演では獣医学部OBのプロスキーヤー三浦雄一郎氏が「生きがい－高齢

社会におけるチャレンジと夢－」と題して75歳で成功したエベレスト登頂について話されました。懇親会では、石山喬工学部同窓会東京支部長、三上隆前同窓会会長、覚知豊次新同窓会理事長、馬場直志新同窓会会長の挨拶の後、乾杯の発声は数土文夫北海道大学連合同窓会会長により行われ、学科、世代を超えた和やかな交流の場となりました。



講演を行う佐伯総長



同窓生で満員となった講演会場



懇親会で挨拶をする馬場新会長

－北水同窓会定期総会－

5月29日(土)、水産学部の同窓会である第90回北水同窓会定期総会が「青森国際ホテル」で開催されました。

当日は約70名の同窓生が全国から集い、本学からは脇田理事・副学長が参加しました。

総会後の懇親会では、脇田理事・副学長が大学の近況などとあわせて挨拶をしました。同窓生から近況報告のスピーチなどが行われ、フィナーレは「都ぞ弥生」、「水産放浪歌」を全員で合唱し、万歳三唱でお開きとなりました。



挨拶をする横山会長



横山会長を中心に参加者全員で記念撮影



同窓生と一緒に「都ぞ弥生」を歌う
協田理事・副学長

—平成 22 年度北海道大学連合同窓会総会（評議員会・幹事会合同会議）の開催—

6月9日（水）、札幌市内のホテルで、北海道大学連合同窓会総会（評議員会・幹事会合同会議）が開催されました。

当日は、数土文夫会長（JFEホールディングス株式会社取締役）をはじめとする役員、評議員・幹事である各学部等同窓会・地区同窓会の代表の計57名が出席しました。特に、地区同窓会では、海外から中国、台湾、韓国の代表が参加しました。

今回の会議では、連合同窓会に新たに加わった同窓会（公共政策大学院同窓会、台湾同窓会及び韓国同窓会）の紹介や、各学部等同窓会・地区同窓会の活動状況等について報告があり、

平成21年度事業・決算報告及び平成22年度の事業計画について、審議が行われました。また、本会の設立当時から6年間にわたり副会長を務めた沢邦彦氏（富士電機ホールディングス株式会社相談役）が退任し、後任の副会長として、石山 喬氏（日本軽金属株式会社代表取締役社長）が就任いたしました。なお、大学からは北大の近況や北海道大学卒業生向けインターネットサービスについて報告がありました。

総会終了後に行われた懇談会では、参加者同士の意見交換が活発に行われ、最後は全員で「都ぞ弥生」を合唱し盛況のうちに終了しました。



総会の様子



数土会長による挨拶



懇談会で「都ぞ弥生」を合唱する参加者

（総務部広報課）

諸会議の開催状況

役員会（平成22年 5 月13日）

協議事項・「総合入試」の実施に伴う教育組織の整備構想について

- ・学位記授与式（3 月期）の実施日について

報告事項・北大交流プラザ「エルムの森」の移転について

- ・北海道大学緑のピアガーデン2010の開催について
- ・平成23年度施設整備費概算要求に係る学内ヒアリングの結果について
- ・平成21年度決算速報について
- ・平成21年度資金の運用状況について
- ・事業所内保育所ともにの開所について
- ・平成22年度会計監査人候補者の選定について

教育研究評議会（平成22年 5 月19日）

議 題・「総合入試」の実施に伴う教育組織の整備構想について

- ・学位記授与式（3 月期）の実施日について
- ・大学間交流協定の新規締結について

報告事項・北大交流プラザ「エルムの森」の移転について

- ・北海道大学緑のピアガーデン2010の開催について

役員会（平成22年 5 月24日）

議 案・「総合入試」の実施に伴う教育組織の整備構想について

- ・学位記授与式（3 月期）の実施日について
- ・総長室等事業推進経費の基本方針について

協議事項・南新川国際交流会館2号館（仮称）の寄宿料について

報告事項・北海道大学プロフェッサー・ビジット2010の実施について

- ・平成23年度特別経費文部科学省事前説明の状況について
- ・平成21年度病院収支の概要について
- ・平成21年度内部監査報告について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しております。

学 内 規 程

国立大学法人北海道大学組織規則の一部を改正する規則

（平成22年 5 月 6 日海大達第160号）

国立大学法人北海道大学危機管理規程の一部を改正する規程

（平成22年 5 月 6 日海大達第161号）

国立大学法人北海道大学事業所内保育所ともに規程

（平成22年 5 月 6 日海大達第162号）

国立大学法人北海道大学事業所内保育所ともに運営委員会規程

（平成22年 5 月 6 日海大達第163号）

平成22年 5 月 6 日付けで、本学に職員又は学生の厚生補導等のための施設として「事業所内保育所ともに」を置くことに伴い、所要の定め及び改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

（平成22年 6 月 1 日海大達第164号）

本学のオープンファシリティについて、設備の追加を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

人事

平成22年 6 月 1 日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【教授】 大学院獣医学研究科教授	石 塚 真由美	大学院獣医学研究科准教授
【准教授】 大学院薬学研究院准教授 電子科学研究所准教授	穴 田 仁 洋 野 呂 真一郎	大学院薬学研究院助教 電子科学研究所助教
【技術職員】 教育研究支援本部付（人獣共通感染症 リサーチセンター）	村 上 悌 治	採用

新任教授紹介

平成22年 6 月 1 日付

獣医学研究科教授に ^{いしづか}石塚 ^{まゆみ}真由美 氏
(獣医学専攻環境獣医科学講座)



生年月日

昭和44年12月10日

最終学歴

北海道大学大学院獣医学
研究科博士課程修了
(平成10年 3 月)

博士（獣医学）

(北海道大学)

専門分野

毒性学

計 報

名誉教授 ^{いり え とおし} 入江 遠 氏(享年102歳)



名誉教授入江遠氏は平成22年5月17日午後10時3分、心不全のため102歳で逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、明治40年12月17日東京都に生れ、昭和8年3月北海道帝国大学理学部化学科を第一期生として卒業の後、同年4月財団法人理化学研究所真島利行研究室に入所し、有機化学特に天然色素及び複素環式化合物の反応と合成に関する研究に従事され、昭和16年4月北海道帝国大学予科講師嘱託を経て、同年5月同予科教授に任ぜられ、昭和19年5月には「フェノキンチン誘導体の合成並びにその殺菌作用に関する研究」により北海道帝国大学から理学博士の学位を授与されました。昭和21年4月同予科教授、昭和24年6月には北海道大学教授に補され、30年の在職の後、昭和46年3月停年により退職、同年5月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

この間、同氏は、30年にわたる北海道大学在任中、予科教授、理学部化学第四講座（現在の有機化学第一研究室）担任あるいは分担を命ぜられ、広く予科、教養、専門及び大学院学生の教育を通じて、後進の育成、指導にあたられました。永年の研究生活の前半においては、有機化学とくにニトロフラン誘導体を含む複素環式化合物の構造、反応とその生理作用との関連および機構についての研究を進められ多くの成果を挙げられました。また、研究生活の後半は天然有機化合物の研究、特に海藻成分のセスキテルペン、含ハロゲン有機化合物の単離、構造決定、合成及びそれらの生合成研究に従事されました。

同氏は、研究開始当時は世界的にほとんど未知の分野であった海藻成分の研究に力を入れられました。第二次大戦中わが国においては臭素源として「ぶじまつも」という海藻資源を用いましたが、これがどのような形で海藻中に存在しているかも不明な状態のままでした。同氏は、永年にわたる研究成果から、それらが有機化学的に新しい型に属する一群の含ハロゲン有機化

合物として海藻中に存在し、生体内における生合成も特異な経路によることを見出すとともに、それらの生理活性についても多くの研究を進められました。即ち、側鎖に共役二重三重結合をもつ炭素数15の8または7員環含ハロゲン環状エーテル化合物は、海藻中に存在する炭素16の不飽和脂肪酸から生合成され、また炭素15の含ハロゲン芳香族セスキテルペン及びカミグレン誘導体は陸上植物中にも見出されているファルネソールから海水中のハロゲンを取込みながら生合成されることを発見するとともに、芳香族セスキテルペンの一部は殺菌作用を有していることも解明しました。それらの研究成果は多くの学術論文に発表され、世界的に注目をうけ有機化学に関する新しい分野の基礎となりました。また、これら海藻成分の研究は海洋植物と海洋動物中の含ハロゲン化合物との関連を明らかにするとともに、これらの成果が先駆、基礎となって海洋生物全般にわたる研究、更には海洋生物資源利用を含めた研究へと世界的に急速発展しました。現在、世界的に米国、わが国をはじめ多くの国においては海洋生物からの生理活性物質の検索および海洋資源の利用を目的とした海洋生物に関する大型プロジェクトチームによる研究が急速に進められ、さらに国際的には隔年IUPAC（純正応用化学国際連合）主催による「海洋天然物化学討論会」の先駆的、基礎的研究としてその研究成果は多大の評価を受けています。

学外にあっては、学会活動にも意欲を示され、昭和39年4月から同40年3月まで日本化学会北海道支部長を務め、北海道地区を通じてわが国の化学の発展に尽力されるとともに、昭和44年度には第13回天然有機化合物討論会の準備委員会代表として全国の天然有機化合物研究者の研究発表、討論会の組織づくりと会の運営に参画され多大の成果を挙げられ、この分野の発展に大きく貢献されました。

以上のように同氏は、教育者として、また、研究者としてわが国の化学の教育、研究の分野の発展に優れた業績を挙げられ、昭和54年4月29日には勲三等旭日中綬賞が授与されました。

ここに謹んで先生の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

(理学研究院・理学部)

名誉教授 ^{しばた}柴田 ^{たくじ}拓二 氏(享年80歳)

名誉教授柴田拓二氏は平成22年5月2日午前7時37分、肺癌のため80歳でご逝去されました。ここに生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和4年5月3日、北海道小樽市に生まれ、昭和27年3月北海道大学工学部建築工学科を卒業後、同4月に清水建設に就職され、昭和32年8月に同社を退職し、北海道大学工学部講師として採用されました。昭和33年4月に助教授、昭和48年4月に教授に昇任され、平成2年4月から工学部長を併任し、平成5年3月に停年にて退官されました。その後同年4月から北海道工業大学教授として招かれ、平成10年4月から2期8年に渡り学長に就任され、平成18年3月に退職されるまで、ご本人の専門である建築構造学の研究・教育にとどまらず、工学全般にわたる教育の発展に努められました。この間、平成3年7月から3年間日本学術会議会員に就任され、平成5年4月に北海道大学名誉教授、平成18年4月に北海道工業大学名誉教授になられました。

建築構造学の研究においては、わが国の建物の主要な構造として採用されている鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造の挙動、及び建築物の設計で重要な荷重問題について独創性の高い研究を行い、特に鉄筋コンクリート構造部材のせん断抵抗機構の解明に貢献され、昭和50年に日本建築学会賞（論文賞）を受賞されました。また、北海道などの積雪寒冷地で建築物の設計荷重として重要な積雪荷重について、実際に作用する建物の屋根雪の重量データを収集し、各種のデータ分析を行って現在設計で使用されている雪荷重評価法の基礎を築きました。この成果により平成8年には北海道科学技術賞を受賞されました。

教育においては、北海道大学工学部長在任中、工学と人文・社会科学との調和ある発展が求められるとして、学部教育では高度の専門工学を学ぶための基盤の修得を目的とするが、大学院教育組織は学部組織に拘束されないとするなど、総合力と主副2専門領域についての素養を修得

する北海道大学工学部及び大学院工学研究科の特色ある先駆的教育体制を提案し、実現させました。また、北海道工業大学では学長就任後も強力なリーダーシップを発揮され、我が国の高等教育に大きな役割を果たしている私学における教育の向上に多大の努力を傾注されました。この間、日本工学教育協会及び北海道工学教育協会の重職を務め、「工学教育アクレディテーション調査研究委員会」等の委員として、また、日本工学会、日本学術会議あるいは日本建築学会等の諸委員会において、わが国の工学教育の推進と人材育成に長い間貢献してきました。同氏は、わが国の工業教育の水準と国際的流通性をいっそう高めるべきことを、大学の組織運営、大学教員の教育に対する意識、工学教育の評価体制、技術者の資格制度等の広い立場から論じ、大学教育は如何にあるべきかの一層の議論の必要性を強く主張し自ら実践してきました。これら一連の理念とその実現は、工学教育分野の注目を得ており、工学教育における貢献が大きいと評価を受け、この業績に対して平成15年日本工学教育協会功績賞、平成19年日本建築学会賞（教育業績）を受賞されました。

建築行政においては、国土技術開発センター小住宅構造委員会委員、日本建築センター高層評定委員、国際協力事業団ペルー共和国・日本・ペルー地震防災センター派遣専門家、北海道特定開発行為審査会委員、北海道建築士審査会委員、北海道航空宇宙産業基地構想検討委員会委員、北海道頭脳立地構想推進協議会委員、北海道科学技術審議会委員、北海道建築審査会会長および札幌市では豊平館修復委員会委員、札幌市建築審査会委員、（仮称）札幌コミュニティドーム提案競技審査委員会委員長の数多くの委員会委員・委員長を歴任して、建築の専門家の立場から地域の建築行政に大きな貢献を果たされました。

学協会においては、日本建築学会、日本雪工学会、日本コンクリート工学協会、日本工業教育協会などの学協会副会長・理事を歴任され日本学術会議会員、学術審議会専門委員、産業技術審議会専門委員としてわが国の学術・技術の全般に拘る発展に寄与されました。さらに日本建築学会、日本コンクリート工学協会、溶接学

会、日本溶接協会等の学協会の北海道支部長をはじめとする役員を務め、それぞれの学協会の発展に貢献されました。この功績により、平成9年に溶接学会から学術振興賞、平成11年に日本溶接協会業績賞を受賞された他、平成10年日本建築学会、平成11年日本コンクリート工学協会、平成12年日本雪工学会、平成20年日本地震工学会から名誉会員に推挙されました。

以上のように、同氏は建築構造学および工学教育の国際化の発展に大きく貢献されたことにより、平成20年11月に瑞宝中綬章が授与されています。更に平成21年5月には日本建築学会から同会の最高の名誉である日本建築学会大賞が授与されました。

ここに謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(工学院・工学研究院・工学部)

名誉教授 小島^{こじま} 幸治^{こうじ} 氏(享年87歳)

名誉教授小島幸治氏は、平成22年5月26日肝のう胞のため逝去されました。ここに、同氏の生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、大正11年12月22日、北海道に生まれ、

昭和21年9月北海道帝国大学農学部林学科を卒業後、同年12月北海道帝国大学助手に採用され、同22年12月まで同大学農学部林学科に勤務した後、国際基督教大学研究所研究生として研究に従事されました。その後、酪農学園大学部、酪農学園大学短期大学勤務を経て、昭和28年3月、再び北海道大学助手に採用され、農学部林産学科に勤務されました。同33年4月講師、同38年4月助教授、同41年4月教授に昇任し、同42年4月同大学農学部から同大学農学部附属演習林に配置換えとなり、同61年3月31日停年により退職し、同年4月北海道大学名誉教授の称号を授与されました。

同氏はこの間、農学部附属演習林において、昭和45年7月から雨龍地方演習林長、同48年より農学部附属演習林長を併任し、同51年11月まで務められ、演習林の管理・運営及び研究の指導者的な立場から貢献されました。

研究面においては、永年にわたって、森林内における伐木及び木材搬出作業のシステムと作業能率、林業機械の性能改善及び林業機械使用者の健康障害防止に関する研究に従事され、特に雪上集材作業の機械化に関する研究は世界的にみても極めて少なく、その分野で多数の研究成果を挙げ、多大なる功績を残されました。

教育面においては、学部学生及び大学院学生の教育と研究指導に情熱を注ぎ、多くの研究者等を養成し、大学等研究機関をはじめ各界に優秀な人材を送り出しました。また学内では、昭和48年4月から昭和50年3月まで低温科学研究所に併任され、学生の教育指導にあたられました。

学外においては、日本林学会北海道支部長、森林利用研究会理事、教科書用図書検定調査審議会調査員等を歴任し、学術の振興および林業技術の発展に尽力するとともに、昭和58年に中

華人民共和国の東北林業大学、同60年に同国の雲南農業大学に招待されて講義を行い、国際交流にも尽力されました。

以上のように同氏は、教育・研究の発展、後進の啓発と斯学の発展に貴重な貢献をなされました。

ここに、謹んで先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(北方生物圏フィールド科学センター)

資料

在 籍 学 生 数 (平成22年 5 月 1 日現在)

- (注) 1 () 内は女子の内数, < > 内は女子の比率。
 2 [] 内は 2 年次編入学定員で外数。
 3 [] 内は 3 年次編入学定員で外数 (工学部は高専卒業者の受入れ)。
 4 以下の表は, すべて外国人留学生数を含む。

■学部

学部名	入学定員	在 籍 者 数							聴講生	科目等履修生	研究生	特 別聴講学生	合 計
		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計					
文学部	185人 [人] [10人]	200人	188人	211人	278人	一人	一人	877人 (444<50.6%>)	10人	12人	27人	26人	952人 (488<51.3%>)
教育学部	50 [10]	57	53	69	77	—	—	256 (144<56.3>)	3	22	10	3	294 (158<53.7>)
法学部	200 [10] [10]	213	215	226	298	—	—	952 (286<30.0>)		3		4	959 (290<30.2>)
経済学部	190	206	211	209	244	—	—	870 (237<27.2>)	2		25	9	906 (257<28.4>)
理学部	300	302	332	341	346	—	—	1,321 (278<21.0>)		2	2	1	1,326 (280<21.1>)
医学部	287 [5] [20]	306	299	312	328	98	99	1,442 (619<42.9>)			2		1,444 (620<42.9>)
歯学部	60	63	54	55	62	55	59	348 (140<40.2>)			4		352 (141<40.1>)
薬学部	80	90	93	79	86	30	—	378 (132<34.9>)			2		380 (133<35.0>)
工学部	670 [10]	681	727	745	856	—	—	3,009 (306<10.2>)		1	2	6	3,018 (308<10.2>)
農学部	215	248	218	242	236	—	—	944 (256<27.1>)	4			7	955 (262<27.4>)
獣医学部	40	42	41	43	49	43	43	261 (112<42.9>)					261 (112<42.9>)
水産学部	215	229	224	230	233	—	—	916 (252<27.5>)		1	2	5	924 (256<27.7>)
合 計	2,492 [15] [60]	2,637	2,655	2,762	3,093	226	201	11,574 (3,206<27.7>)	19	41	76	61	11,771 (3,305<28.1>)

■研究所等

研 究 所 等 名	研 究 生	特別研究学生	日本語・日本文化 研修生	日本語研修生	合 計
低 温 科 学 研 究 所	1人		一 人	一 人	1人 (0< 0.0%>)
電 子 科 学 研 究 所	2		—	—	2 (0< 0.0 >)
ス ラ プ 研 究 セ ン タ ー	3		—	—	3 (1<33.3 >)
情 報 基 盤 セ ン タ ー	5		—	—	5 (1<20.0 >)
総 合 博 物 館	2		—	—	2 (0< 0.0 >)
留 学 生 セ ン タ ー			15	11	26 (13<50.0 >)
観 光 学 高 等 研 究 セ ン タ ー	1		—	—	1 (0< 0.0 >)
合 計	14	0	15	11	40 (15<37.5 >)

資 料

■大学院

(注) 法学研究科の専門職学位課程の上段は3年課程, 下段は2年課程の学生数。

研究科名	修士課程（博士前期）				専門職学位課程					博士課程（博士後期及び博士一貫）						聴講生	科目等履修生	研究生	特別聴講学生	特別研究学生	合 計
	入学定員	在籍者数			入学定員	在籍者数				入学定員	在籍者数										
		1年次	2年次	小 計		1年次	2年次	3年次	小 計		1年次	2年次	3年次	4年次	小 計						
文学研究科	118人	99人	108人	207人 (108/52.2%)	一人	一人	一人	一人	一人	50人	40人	25人	168人	一人	233人 (108/46.4%)	2人	1人	8人	人	人	451人 (221/ 49.0%)
法学研究科	20	23	31	54 (23/42.6%)	80	34 51	35 53	40 —	213 (46/21.6%)	15	11	5	28	—	44 (11/25.0%)		1	10	10	1	333 (89/ 26.7%)
経済学研究科	30	35	29	64 (26/40.6%)	20	21	25	—	46 (13/28.3%)	15	7	9	23	—	39 (15/38.5%)		1	1	5		156 (57/ 36.5%)
医学研究科	30	24	29	53 (32/60.4%)	—	—	—	—	—	100	96	85	88	165	434 (98/22.6%)			16		4	507 (135/ 26.6%)
歯学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	42	39	39	34	39	151 (51/33.8%)			15			166 (55/ 33.1%)
薬学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			1			1 (1/100.0%)
獣医学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24	24	22	21	26	93 (24/25.8%)			12			105 (29/ 27.6%)
情報科学研究科	177	213	224	437 (29/ 6.6%)	—	—	—	—	—	42	57	49	64	—	170 (23/13.5%)			9	3	4	623 (53/ 8.5%)
水産科学院	90	115	104	219 (59/26.9%)	—	—	—	—	—	35	28	23	46	—	97 (26/26.8%)					6	322 (91/ 28.3%)
水産科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			3			3 (0/ 0.0%)
水産科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6	—	6 (0/ 0.0%)						6 (0/ 0.0%)
環境科学院	159	112	147	259 (60/23.2%)	—	—	—	—	—	63	47	40	69	—	156 (48/30.8%)	1				2	418 (110/ 26.3%)
地球環境科学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			5			5 (0/ 0.0%)
理学院	129	129	202	331 (49/14.8%)	—	—	—	—	—	56	56	64	80	—	200 (44/22.0%)	1				11	543 (94/ 17.3%)
理学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			5			5 (0/ 0.0%)
理学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	9	—	9 (1/11.1%)						9 (1/ 11.1%)
農学院	150	189	154	343 (128/37.3%)	—	—	—	—	—	50	47	44	68	—	159 (47/29.6%)					1	503 (176/ 35.0%)
農学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			5			5 (1/ 20.0%)
農学研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—	7 (1/14.3%)						7 (1/ 14.3%)
生命科学院	132	128	136	264 (103/39.0%)	—	—	—	—	—	50	47	39	43	—	129 (38/29.5%)					4	397 (144/ 36.3%)
先端生命科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						0 (0/ 0.0%)
教育学院	45	43	58	101 (62/61.4%)	—	—	—	—	—	21	16	20	25	—	61 (33/54.1%)	3			7		172 (104/ 60.5%)
教育学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			1			1 (1/100.0%)
教育学研究科	—	—	2	2 (0/ 0.0%)	—	—	—	—	—	—	—	—	49	—	49 (26/53.1%)			1			52 (26/ 50.0%)
国際広報メディア・観光学院	42	44	57	101 (65/64.4%)	—	—	—	—	—	17	13	16	20	—	49 (24/49.0%)					1	151 (90/ 59.6%)
メディア・コミュニケーション研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			18			18 (12/ 66.7%)
国際広報メディア研究科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	11	—	12 (9/75.0%)						12 (9/ 75.0%)
保健科学院	26	36	35	71 (28/39.4%)	—	—	—	—	—	8	20	—	—	—	20 (9/45.0%)						91 (37/ 40.7%)
保健科学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			7			7 (2/ 28.6%)
工学院	326	349		349 (29/ 8.3%)	—	—	—	—	—	69	36			—	36 (7/19.4%)	1			1	1	388 (37/ 9.5%)
工学研究院	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			11			11 (3/ 27.3%)
工学研究科	—	18	436	454 (52/11.5%)	—	—	—	—	—	—	24	67	102	—	193 (19/ 9.8%)			1		2	650 (71/ 10.9%)
総合化学院	129	144		144 (31/21.5%)	—	—	—	—	—	38	33			—	33 (3/ 9.1%)					4	181 (36/ 19.9%)
公共政策学教育部	—	—	—	—	30	33	51	—	84 (20/23.8%)	—	—	—	—	—	—		1				85 (21/ 24.7%)
公共政策学連携研究部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						0 (0/ 0.0%)
合 計	1,603	1,701	1,752	3,453 (884/25.6%)	130	139	164	40	343 (79/23.0%)	695	641	548	961	230	2,380 (665/27.9%)	5	7	129	26	41	6,384 (1,707/ 26.7%)

資 料

平成 22 年度外国人留学生数

【部局別】
学部等

平成 22 年 5 月 1 日現在

部 局 名	国 費		外国政府派遣		私 費		合 計
	学部留学生	研 究 生	学部留学生	研 究 生	学部留学生	研 究 生	
文 学 部	1 (1)	1 (1)			4 (1)	48 (26)	54 (29)
教 育 学 部					7 (7)	11 (7)	18 (14)
法 学 部					4 (3)	4 (2)	8 (5)
経 済 学 部	2 (2)	2 (1)			4 (2)	32 (18)	40 (23)
理 学 部					4	1 (1)	5 (1)
医 学 部					4 (2)		4 (2)
歯 学 部					3 (2)		3 (2)
薬 学 部					1 (1)		1 (1)
工 学 部	9		25 (4)		24 (4)	6 (2)	64 (10)
農 学 部					4 (1)	7 (5)	11 (6)
獣 医 学 部					1		1 (0)
水 産 学 部					2 (1)	6 (4)	8 (5)
合 計	12 (3)	3 (2)	25 (4)		62 (24)	115 (65)	217 (98)

大学院等

部 局 名	国 費				外国政府派遣				私 費				合 計
	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研 究 生	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研 究 生	修士課程	専門職学位課程	博士課程	研 究 生	
文 学 研 究 科	10(7)		8(6)	1(1)				1(1)	32(24)		25(19)	4(2)	81(60)
法 学 研 究 科	1(1)		4(1)	1			2(1)	4(1)	30(12)		14(4)	16(8)	72(28)
経 済 学 研 究 科	3(0)		1				1(1)		32(20)		6(3)	1	44(24)
医 学 研 究 科	1(1)		12(4)	1			2(2)		2(2)		6(2)		24(11)
歯 学 研 究 科			3(1)								5(2)		8(3)
獣 医 学 研 究 科			21(6)	1(1)				1			9(2)	3(1)	35(10)
情 報 科 学 研 究 科	5		18(2)	1			4(1)	1	33(8)		26(12)	8(1)	96(24)
水 産 科 学 院	2		12(5)				2(1)		4(2)		16(8)	6(6)	42(22)
環 境 科 学 院	5(1)		12(2)				6(1)		13(5)		21(10)	1(1)	58(20)
地 球 環 境 科 学 研 究 院												1	1(0)
理 学 研 究 院	5(1)		19(7)		1		7(3)	1(1)	9(2)		22(8)	1	65(22)
理 学 研 究 院				1									1(0)
農 学 研 究 院	15(11)		28(9)		1		11(5)		12(6)		21(9)	1(1)	89(41)
農 学 研 究 院												4(1)	4(1)
生 命 科 学 院	2(1)		7(4)					1	6(5)		14(9)	1(1)	31(20)
教 育 学 院			1(1)				1(1)		24(16)		6(4)	1(1)	33(23)
教 育 学 研 究 科											3(2)		3(2)
国際広報メディア・観光学院			3(2)		2(1)		1		37(28)		4(3)	1(1)	48(35)
メディア・コミュニケーション研究院				2(1)				1				14(11)	17(12)
国際広報メディア研究科											1(1)		1(1)
工 学 研 究 院	5(2)		3(2)		3(1)		4(1)		10(2)		3(1)	2(1)	30(10)
工 学 研 究 院								2				5(2)	7(2)
工 学 研 究 科	32(8)		34(5)				7	1	8(1)		26(5)	2	110(19)
総 合 化 学 院							1(1)		1(1)		6(1)		8(3)
公 共 政 策 学 教 育 部										2(1)			2(1)
低 温 科 学 研 究 所												1	1(0)
ス ラ プ 研 究 セ ン タ ー				3(1)									3(1)
情 報 基 盤 セ ン タ ー												5(1)	5(1)
合 計	86(33)		186(57)	11(4)	7(2)		49(18)	13(3)	253(134)	2(1)	234(105)	78(39)	919(396)

日本語研修生等

留 学 生 セ ン タ ー	日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 生		日 本 語 研 修 生	合 計
	国 費	私 費	国 費	
	7 (4)	8 (4)	11 (5)	26 (13)

外国人留学生総数

学 部 留 学 生 数	大 学 院 留 学 生			研 究 生 等	日 本 語 研 修 生 日 本 語 ・ 日 本 文 化 研 修 生	留 学 生 総 数
	修士課程	専門職学位課程	博士課程			
99 (31)	346 (169)	2 (1)	469 (180)	220 (113)	26 (13)	1,162 (507)

* () 内は女子を内数で示す。

* 修士課程には博士前期課程を、博士課程には博士後期課程を含む。

* 研究生等には特別聴講学生、科目等履修生を含む。

(学術国際部国際支援課)

【国・地域別】

平成 22 年 5 月 1 日現在

地域	国名(地域名)	国費							政府派遣							私費										合計					
		学部		日本語 研修生	日・日 語・日 本文化 研修生	大学院			小計	学部		大学院			小計	学部					日・日 語・日 本文化 研修生	大学院					小計				
		学士	研究生			修士	博士	研究生		修士	博士	研究生	特別研 究学生	特別聴 講学生		学士	研究生	科目等 履修生	聴講生	特別聴 講学生		修士	博士	研究生	特別研 究学生			特別聴 講学生			
インド					6(2)	6(2)																					7	131(2)			
インドネシア	1		1(1)		5(4)	10(3)	17(7)				11(1)					11(1)						21(2)		7(2)	20(12)	1(1)			30(17)	481(26)	
韓国	8			1(1)	12(5)	17(7)										11(1)	19(6)	4(2)				22(16)	3(2)	14(5)	27(12)	3(1)	1(1)	1(1)	94(46)	143(60)	
カンボジア					1																					3			3	4	
シンガポール					1																		1(1)						1(1)	2(1)	
スリランカ					2	5																	1(1)							7	
タイ		1(1)			4(3)	10(7)	1	16(11)			1					1								3(1)		9(4)	1			13(7)	30(18)
台湾																														7	
中国					11(4)	33(12)	1	45(16)			5(2)	48(17)	8(2)	3(1)	2	66(22)	38(17)	63(32)				12(6)	3(2)	265(112)	2(1)	91(47)	22(14)	14(10)	4(3)	634(244)	965(282)
ネパール					1	3		4																					2(1)	6(1)	
パキスタン						3		3																					1	4	
バングラデシュ					3	20(3)		23(3)																1(1)		15(6)			16(7)	39(16)	
フィリピン		1(1)			5(1)	8(3)		14(5)																					1(1)	15(1)	
ブルネイ					1			1																						1	
ベトナム						2		2																			2	4		6	8
マレーシア		2(2)			2(1)		1(1)	5(4)	14(3)		1					15(3)								2		8(4)			10(4)	30(11)	
ミャンマー		1(1)			3(1)	3(1)		7(3)																						7(3)	
モザンビーク		1			1(1)	1	1	4(1)									2(1)								1(1)		6(3)			9(5)	13(6)
ラオス																										1(1)			1(1)	1(1)	1(1)
小計(19ヶ国・地域)	9	1(1)	6(5)	1(1)	52(20)	121(36)	4(1)	194(66)	25(4)		7(2)	49(18)	8(2)	3(1)	2	94(27)	60(24)	68(35)				40(27)	6(4)	246(112)	2(1)	201(98)	31(17)	16(12)	9(5)	887(350)	1555(433)
イスラエル						1(1)		1(1)																						1(1)	1(1)
イラク						2(1)		2(1)																						2(1)	
イラン					1	3(1)		4(1)															1(1)		3(2)	1		5(3)	9(4)	3(1)	
シリア					1	1(1)		2(1)																		1		1	3(1)		
トルコ					1			1																						1	
ヨルダン						1(1)		1(1)																						1(1)	1(1)
レバノン		1						1																						1	
小計(17ヶ国)	1			3	8(5)	12(5)		12(5)																1(1)		4(2)	1		6(3)	18(8)	
ウガンダ				1	1	2																								2	
エジプト	1			4(2)	2	7(2)																	1(1)		6	2(1)		9(2)	16(4)		
エチオピア		1			2	3																								3	
ガーナ					1	1																	1(1)					1(1)	2(1)		
カメルーン																												1	1		
ケニア				1	3	4																				1		1	1		
コンゴ民主共和国				1		1																								4	
ザンビア					5	5																								5	
ジンバブエ					1	1																								1	
スーダン		1			1	2																								2	
タンザニア	1					1																							1(1)	2(1)	
チュニジア																													1(1)	2(1)	
ナイジェリア					3(2)	3(2)																				2		2			
パナマ					1	1																		1(1)		1(1)		2(2)	5(4)		
マダガスカル		1		1		2																								1	
モロッコ					1(1)	1(1)																								1(1)	1(1)
リビア					1	1																								1	
小計(17ヶ国)	1	4		8(2)	22(9)	0	35(9)																4(4)		10(4)	2(1)		16(6)	51(11)		
オーストラリア	1					1																								1	
バブアニューギニア					1	1																								1	
小計(2ヶ国)	1			1	0	2																								2	
アメリカ合衆国			2	2(1)	3(1)	7(2)																	10(2)	1	1		1	2(1)	1	16(3)	23(5)
カナダ				1	1(1)	2(1)																								2(1)	
小計(2ヶ国)			2	3(1)	4(2)	9(3)																	10(2)	1	1		1	2(1)	1	18(3)	25(6)
ウルグアイ					1(1)	1(1)																								1(1)	
ガイアナ				1		1																								1	
グアテマラ				1		1																								1	
コスタリカ				1	1	2																								2	
コロンビア				3(2)	2	5(2)																									
ジャマイカ					1	1																								1	
トリニダード・トバゴ					1	1																								1	
パナマ	1				1	2																								1	
パラグアイ																													1(1)	2(1)	
ブラジル	1			2	4(1)	7(1)																								7(1)	
ベネズエラ					1(1)	1(1)																								1(1)	
ペルー					1	1																								1	
ボリビア					1	1																								1	
小計(13ヶ国)	2		9(2)	13(3)		24(5)										1											1(1)		2(1)	26(6)	
アゼルバイジャン				1(1)		1(1)																								1(1)	
イタリア						0																		1(1)					1(1)	1(1)	
英国					2	2																					1(1)		1(1)	3(1)	
ウクライナ				1(1)		1(1)																								1(1)	
オランダ				1		1																								1	
カザフスタン	1(1)			2(2)	1(1)	4(4)																								4(4)	
ギリシャ					1	1																								2	
キルギス	1(1)			1(1)		2(2)																								1(1)	
クロアチア	1(1)					1(1)																								1(1)	
スイス						1(1)		1(1)																1					1	2(1)	
スウェーデン																													1	1	
スペイン																															

(学術国際部国際支援課)

資 料

平成21年度卒業生の就職等状況一覧

1. 就職等状況

【学 部】

平成22年 5 月 1 日現在

学 部		文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部	工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
							医学科	保健学科							
項 目		人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A)		(80)	(38)	(76)	(52)	(64)	(24)	(123)	(24)	(6)	(67)	(71)	(11)	(51)	(687)
卒	業 者 数	179	67	230	182	288	99	206	59	37	705	228	42	208	2,530
(B)		(56)	(25)	(53)	(43)	(7)		(97)		(1)	(16)		(7)	(22)	(342)
就	職 希 望 者 数	118	45	139	150	44		151		9	99		26	59	897
(C)		(51)	(20)	(45)	(39)	(5)		(95)		(1)	(15)	(14)	(7)	(22)	(314)
就	職 者 数	102	37	120	139	36		144		9	91	53	26	56	813
うち		(22)	(15)	(22)	(19)	(2)		(24)		(1)	(13)	(11)	(6)	(15)	(150)
うち	道 外 内 定 者	49	23	72	92	24		35		5	57	37	20	38	452
うち															(0)
	有 職 者														(0)
(D)		(91.1)		(80.0)	(84.9)	(90.7)	(71.4)	-	(97.9)	-	(100.0)	(93.8)		(100.0)	(91.8)
就	職 率 (%)	86.4	82.2	86.3	92.7	81.8	-	95.4	-	100.0	91.9	93.0	100.0	94.9	90.6
(E)		(11)	(12)	(9)	(10)	(9)	(12)	(4)	(5)	(56)	(56)	(1)	(1)	(16)	(23)
進	学 者 数	39	13	17	34	46	18	22	227	239	2	2	41	50	
うち		(11)	(12)	(9)	(10)	(9)	(12)	(4)	(5)	(56)	(56)	(1)	(1)	(14)	(20)
うち	大 学 院	38	13	17	34	45	18	22	227	239	2	2	39	46	
うち		(0)			(0)	(0)				(0)	(3)				
うち	大 学	1			(0)	1				(0)	4				
うち		(0)			(0)					(0)					
	就職している者														(0)
(F)		(17)	(8)	(19)	(8)	(3)	(23)	(5)	(24)	(0)	(3)	(5)	(1)	(1)	(117)
そ	の 他	38	13	64	21	13	97	12	59	0	26	15	6	17	

- ・ A=C+E+F
- ・ D=C÷B×100
- ・ 上段()は、女子で内数/就職率()は、女子の就職率
- ・ 進学者数〔 〕は、本学進学者で内数。

◇医学部については、卒業後2年間の研修期間がある。

◇歯学部については、卒業後1年間の研修期間がある。

【修士課程】

項 目	研究科(学院)														合計
	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	工学研究科	情報科学研究科	水産科学院	環境科学院	理学院	農学院	生命科学院	教育学院 *	国際広報メディア・観光学院 *	保健科学院	
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 修了者数	(45) 84	(3) 13	(10) 19	(14) 29	(47) 443	(12) 201	(22) 101	(45) 135	(32) 190	(49) 152	(44) 137	(24) 41	(33) 51	(10) 28	(390) 1,624
(B) 就職希望者数	(20) 37	(1) 4	(6) 12	(9) 14	(40) 406	(9) 173	(18) 81	(33) 97	(22) 133	(37) 125	(35) 99	(12) 22	(22) 36	(6) 18	(270) 1,257
(C) 就職者数	(13) 26	(1) 2	(2) 7	(9) 14	(40) 402	(9) 171	(17) 80	(33) 95	(21) 126	(34) 115	(34) 95	(10) 18	(19) 31	(6) 18	(248) 1,200
うち	(6) 14	(0) 1	(2) 5	(4) 5	(33) 345	(8) 145	(13) 61	(26) 70	(18) 104	(32) 102	(25) 76	(2) 3	(15) 22	(1) 7	(185) 960
道外内定者															(13) 960
うち															(13) 960
有職者															(28) 960
(D) 就職率(%)	(65.0) 70.3	(100.0) 50.0	(33.3) 58.3	(100.0) 100.0	(100.0) 99.0	(100.0) 98.8	(94.4) 98.8	(100.0) 97.9	(95.3) 94.7	(91.9) 92.0	(97.1) 96.0	(83.3) 81.8	(86.4) 86.1	(100.0) 100.0	(91.9) 95.5
(E) 進学者数	(12) 30	(0) 4	(1) 3	(3) 9	(5) 28	(3) 26	(2) 13	(5) 18	(6) 47	(7) 21	(8) 29	(5) 9	(3) 3	(3) 8	(59) 245
うち	(12) 30	(0) 4	(1) 3	(3) 9	(5) 28	(3) 26	(2) 13	(5) 18	(6) 47	(7) 21	(8) 29	(5) 9	(3) 3	(3) 8	(59) 245
大学	(12) 30	(0) 4	(1) 3	(3) 9	(5) 28	(3) 26	(2) 13	(5) 18	(6) 47	(7) 21	(8) 29	(5) 9	(3) 3	(3) 8	(59) 245
うち	(12) 30	(0) 4	(1) 3	(3) 9	(5) 28	(3) 26	(2) 13	(5) 18	(6) 47	(7) 21	(8) 29	(5) 9	(3) 3	(3) 8	(59) 245
大学	(12) 30	(0) 4	(1) 3	(3) 9	(5) 28	(3) 26	(2) 13	(5) 18	(6) 47	(7) 21	(8) 29	(5) 9	(3) 3	(3) 8	(59) 245
うち	(12) 30	(0) 4	(1) 3	(3) 9	(5) 28	(3) 26	(2) 13	(5) 18	(6) 47	(7) 21	(8) 29	(5) 9	(3) 3	(3) 8	(59) 245
就職している者	(12) 30	(0) 4	(1) 3	(3) 9	(5) 28	(3) 26	(2) 13	(5) 18	(6) 47	(7) 21	(8) 29	(5) 9	(3) 3	(3) 8	(59) 245
(F) その他	(20) 28	(2) 7	(6) 8	(2) 3	(2) 9	(0) 4	(2) 4	(7) 22	(4) 13	(7) 15	(2) 9	(9) 14	(11) 17	(0) 0	(74) 153

- ・ A=C+E+F
- ・ D=C÷B×100
- ・ 上段()は、女子で内数/就職率()は、女子の就職率
- ・ 進学者数〔 〕は、本学進学者で内数。

* : ◇教育学院には、教育学研究科修了者を含む。

◇国際広報メディア・観光学院には、国際広報メディア研究科修了者を含む。

資 料

【専門職大学院】

研究科等 項 目	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	合計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 修了者数	(20) 99	(4) 21	(11) 31	(35) 151
(B) 就職希望者数	(0) 6	(2) 7	(9) 28	(11) 41
(C) 就職者数	(0) 6	(1) 5	(9) 27	(10) 38
うち 道外内定者	(0) 6	(1) 4	(5) 15	(6) 25
うち 有職者	(0) 2	(0) 0	(2) 7	(2) 9
(D) 就職率(%)	— 100.0	(50.0) 71.4	(100.0) 96.4	(90.9) 92.7
(E) 進学者数		[1] (3)		[1] (3)
うち 大 学 院		(1) (3)		(1) (3)
うち 大 学				(0) 0
うち 就職している者				(0) 0
(F) その他	(20) 93	(2) 13	(2) 4	(24) 110

- ・ A=C+E+F
 - ・ D=C÷B×100
 - ・ 上段()は、女子で内数／就職率()は、女子の就職率
 - ・ 進学者数〔 〕は、本学進学者で内数。
- ◇法科大学院の(F)その他には、修了後に実施される新司法試験の受験準備者を含む。

【博士課程】

研究科(学院) 項 目	文学研究科	教育学院 *	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	歯学研究科	工学研究科	獣医学研究科	国際広報メディア ・観光学院 *	情報科学 研究科	水産科学院 *	環境科学院 *	理学院 *	農学院 *	生命科学学院	合計
	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)	人数(名)
(A) 修了者数	[6] (11) [23] 44	[4] (6) [7] 9	[0] (2) [4] 10	[0] (2) [1] 12	[2] (20) [5] 86	[0] (5) [0] 19	[1] (12) [16] 83	[3] (4) [8] 17	[0] (1) [2] 4	[0] (3) [5] 36	[2] (6) [9] 27	[2] (11) [12] 51	[5] (9) [17] 50	[2] (13) [8] 47	[0] (3) [5] 29	[27] (108) [122] 524
(B) 就職希望者数	(5) 16	(3) 5	(2) 9	(0) 1	(17) 73	(2) 10	(7) 32	(2) 7	(1) 4	(1) 26	(2) 13	(11) 51	(6) 25	(8) 32	(2) 15	(69) 339
(C) 就職者数	(3) 8	(3) 5	(2) 9	(0) 1	(17) 70	(2) 10	(7) 49	(2) 7	(1) 2	(1) 26	(2) 12	(1) 17	(2) 22	(5) 22	(1) 14	(56) 274
うち 道外内定者	(1) 2	(0) 0	(0) 1	(0) 1	(2) 9	(0) 1	(7) 41	(1) 4	(0) 1	(1) 22	(1) 7	(3) 14	(5) 18	(5) 15	(0) 12	(26) 148
うち 有職者	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(0) 0	(1) 7	(0) 4	(1) 29	(1) 3	(0) 1	(0) 17	(0) 0	(0) 0	(1) 1	(0) 11	(0) 5	(7) 85
(D) 就職率(%)	(60.0) 50.0	(100.0) 100.0	(100.0) 100.0	— 100.0	(100.0) 95.9	(100.0) 100.0	(100.0) 94.2	(100.0) 100.0	(100.0) 50.0	(100.0) 100.0	(100.0) 92.3	(36.4) 33.3	(100.0) 88.0	(62.5) 68.8	(50.0) 93.3	(81.2) 80.8
(E) 進学者数																0
うち 大 学 院																0
うち 大 学																(0) 0
うち 就職している者																(0) 0
(F) その他	[8] 36	[3] 4	[0] 1	[2] 11	[3] 16	[3] 9	[5] 34	[2] 10	[0] 2	[2] 10	[4] 15	[7] 34	[3] 28	[8] 25	[2] 15	[52] 250

- ・ A=C+E+F
 - ・ D=C÷B×100
 - ・ 上段()は、女子で内数／就職率()は、女子の就職率
 - ・ 博士の修了者数〔 〕は、単位修得退学者で内数。(※単位修得退学者も便宜上「修了者」として含める。)
 - ・ 進学者数〔 〕は、本学進学者で内数。
- *：◇教育学院には、教育学研究科修了者を含む。
◇国際広報メディア・観光学院には、国際広報メディア研究科修了者を含む。
◇水産科学院には、水産科学研究科修了者を含む。
◇環境科学院には、地球環境科学研究科修了者を含む。
◇理学院には、理学研究科修了者を含む。
◇農学院には、農学研究科修了者を含む。

2. 職業別就職状況

平成22年5月1日現在

【学部】

職業別分類	学 部		文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部	工学部	農学部	獣医学部	水産学部	合計
			就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	医学部	保健学科	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	職業別就職者数
科学研究者							1						1	(1)	8	10
農林水産業・食品技術者							1						3	(1)	6	25
機械・電気技術者							1					6	1		12	8
電気												1				1
その他												3				3
航空技術者												1	(1)		1	2
化学												3	(1)		3	(1)
その他												22	(4)	2	(1)	25
建築・土木・測量												16	(2)	5	(3)	55
情報処理工術者							8	(3)				13	(4)	2	(1)	16
その他の技術者											1					0
教 員	幼稚園															0
	小学校															0
	中学校	1					1									2
	高等学校	3	(1)				1						1			5
	中等教育学校															0
	高等専門学校															0
	短期大学															0
	大学															0
	特別支援学校															0
	その他															0
専門的技術的職業従事者	医師・歯科医師															0
	獣医師													9	(4)	9
	薬剤師										5					5
その他の職業従事者	保健師・助産師・看護師															67
	医療技術者															75
	その他の保健医療従事者						1									1
	美術・写真・デザイン・音楽・舞台その他															0
管理的職業	事務・写真・デザイン・音楽・舞台その他				1											1
	事務・写真・デザイン・音楽・舞台その他	8	(2)	7	(6)	5	(2)	11	(3)			3	(1)			34
	事務・写真・デザイン・音楽・舞台その他	2	(2)					122	(36)							128
	事務・写真・デザイン・音楽・舞台その他	62	(35)	18	(7)	102	(37)	10	(1)			7	(1)	24	(5)	243
販売従事者	販売従事者	8	(3)	10	(6)	4	(2)	3			2	1		8	(2)	41
	サービス職業	1	(1)	1			1	(1)				2		1	(6)	22
保安職業	保安職業	1					3					2		3		10
	保安職業	2				1										3
農林漁業作業者	農林漁業作業者															0
	漁業作業者															0
運輸・通信	運輸・通信	2	(1)				2					5		1		11
	運輸・通信											1				1
生産工程・労務作業者	生産工程・労務作業者											3	(1)		1	7
	生産工程・労務作業者	1														1
上記以外	上記以外										9	(1)	53	(14)	26	813
	上記以外	102	(51)	37	(20)	120	(43)	139	(39)	36	(5)	91	(15)	56	(22)	813
合計		102	(51)	37	(20)	120	(43)	139	(39)	36	(5)	91	(15)	56	(22)	813

※ () は女子で内数

資料

【修士課程】

職業別分類	学部		文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	工学研究科	情報科学研究科	水産科学院	環境科学学院	理学院	農学院	生命科学学院	教育科学*	国際広域メディア・観光学院*	保健科学院	合計
			就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数
専攻的技術的職業従事者	科学研究者	農林水産業・食品技術者				1 (1)	5	1	1 (1)	10 (7)	24 (4)	27 (10)	42 (12)			6 (1)	116 (36)
		機械					3	1	24 (7)	10 (3)	5 (1)	37 (11)	6 (3)				86 (25)
		電気					94 (3)	13 (2)	6 (1)	1	5 (2)	3 (1)					122 (7)
		その他					32 (3)	78 (3)		2							117 (8)
		化学					10 (2)	5	5 (1)	3	2						25 (3)
		船工業技術者					36 (5)			2 (1)	3		2				43 (6)
		その他					33 (3)				3						36 (3)
		建築・土木・測量					90 (14)		1	3 (1)	3 (1)	6 (1)			1		104 (17)
		情報処理技術者	1 (1)		1 (1)		8 (3)	61 (2)	4 (1)	7 (1)	26 (3)	2	7 (5)	1			118 (17)
		その他の技術者				1 (1)	68 (2)	3	5 (1)	9 (1)	11 (1)	6 (1)	5 (2)				108 (9)
専門的職業従事者	教員	幼稚園								1 (1)							1 (1)
		小学校	1								1						2
		中学校															0
		高等学校	1														0
		中等教育学校															0
		高等専門学校															0
		短期大学						1 (1)									1 (1)
		大学					2 (1)							3 (2)	1 (1)	1	7 (4)
		特別支援学校												2 (1)			2 (1)
		その他							1							1 (1)	2 (1)
事務的職業従事者	その他	医師、歯科医師、獣医師															0
		医師、薬剤師															0
		薬剤師	1										23 (8)			1 (1)	24 (8)
		保健師、助産師、看護師														9 (3)	17 (10)
		医療技術者															0
		その他の保健医療従事者				7 (6)			1 (1)								0
		美術・写真・デザイナー・音楽・舞台															0
		その他	3 (1)				6	1		8 (3)	7 (3)	3 (1)	1	1 (1)	11 (5)		41 (14)
		管理的職業								3 (2)	1		1 (1)		1 (1)		6 (4)
		事務従事者	18 (10)	2 (1)	6 (1)	2 (1)	1	7 (1)	16 (2)	5	11 (4)	16 (6)	2 (1)	6 (5)	11 (7)		103 (39)
生産・サービス職業	保安職業	販売従事者					2 (1)		3	10 (4)	3	13 (2)	3		1 (1)		35 (8)
		サービス職業				1		1	5 (1)	6 (3)	1		2 (1)		2 (2)		18 (7)
		保安職業	1							1							2
		農林漁業作業者															0
		農林業作業者															0
		漁業作業者															0
		運輸・通信				1	7 (1)		4	3	1						16 (1)
		生産・工程・労務作業者															0
		上記以外	1 (1)				4 (1)		3	5 (3)							15 (6)
		合計	26 (13)	2 (1)	7 (2)	14 (9)	402 (40)	171 (9)	80 (17)	95 (33)	126 (21)	115 (34)	95 (34)	18 (10)	31 (19)	18 (6)	1,200 (218)

※（ ）は女子で内数

【専門職大学院】

職業別分類	学 部	法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公共政策大学院 (公共政策学部)	合 計
		就職者数	就職者数	就職者数	
職業別分類					職業別就職者数
科学研究者					0
農林水産業・食品技術者					0
機械・電気技術者					0
機械・電気技術者					0
その他					0
化学					0
その他					0
建築・土木・測量					0
情報処理技術者				2 (1)	2 (1)
その他の技術者					0
教 員					0
幼稚園					0
小学校					0
中学校					0
高等学校					0
中等教育学校					0
高等専門学校					0
短期大学					0
大学					0
特別支援学校					0
その他					0
医師、歯科医師、獣医師					0
医師、歯科医師、獣医師					0
医師、薬剤師					0
薬剤師					0
保健師、助産師、看護師					0
医療技術者					0
その他の保健医療従事者					0
栄養士					0
その他					0
美術・写真・デザイナー・音楽・舞台					0
その他			3	2 (2)	5 (2)
管理的職業					0
事務従事者		1	1 (1)	23 (6)	25 (7)
販売従事者					0
サービス職業					0
保安職業					0
農林業従事者					0
漁業従事者					0
運輸・通信					0
生産工程・労務従事者					0
上記以外		5	1		6
合計		6	5 (1)	27 (9)	38 (10)

※（ ）は女子で内数

資 料

【博士課程】

職業別分類		部		文学研究科	教育学院	法学研究科*	経済学研究科	医学研究科	歯学研究科	工学研究科	獣医学研究科	国際応用メディア ア・観光学院*	情報科学研究科	水産科学研究科*	理学院*	農学院*	生命科学学院	合 計							
		就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	職業別就職者 数							
専 門 的 技 術 的 職 業 従 事 者	科学研究者	1	(1)			1		1		12	(3)	2	(1)	9	(2)	5	(1)	8	57	(11)					
	農林水産業・食品技術者									1		1				14	(3)		7	(1)					
	機械									3									3						
	電気									1			9						11						
	機械・電気技術者									3					2				5						
	その他									5									5						
	化学									2	(1)								2	(1)					
	鉱工業技術者									8									9						
	建築・土木・測量							1		1				9					13						
	情報処理技術者									4				1		3	(1)	2	11	(1)					
その他の技術者																		0							
教 員	幼稚園																		0						
	小学校																		0						
	中学校																		0						
	高等学校																1	2	(1)						
	中等教育学校			2															4	(1)					
	高等専門学校									1									0						
	短明大学												1	1				3							
	大学	3	(1)	3	(3)	6	(2)	12	(7)		3		2	3	(1)	4	(1)	3	(1)	52	(20)				
	特別支援学校												2	7	(1)	4	(2)		0						
	その他									1			1						0						
専門的職業従事者	医師・歯科医師・獣医師																		2						
	医師・獣科医師																		64	(12)					
	医師・薬剤師							1				2	(1)						3	(1)					
	薬剤師																		0						
	保健師、助産師、看護師																		0						
	医療技術者																		0						
	栄養士					1													1						
	その他の保健医療従事者																		0						
	美術・写真・デザイナー・音楽・舞台																		0						
	その他																		0						
管理・事務・販売・サービス・保安・農林漁業・運輸・通信	管理的職業									1	(1)								4	(2)					
	事務従事者									1															
	販売従事者					1		1						2		2	(1)		2	(1)					
	サービス職業																		6	(1)					
	保安職業	1																	0						
	農林漁業従事者																		1	(1)					
	農林漁業作業員																		0						
	漁業従事者																		0						
	運輸・通信																		0						
	生産工程・労働作業員																		0						
上記以外	3	(1)					1			1	(1)							1							
合計	8	(3)	5	(3)	9	(2)	1	70	(17)	10	(2)	49	(7)	7	(2)	2	(1)	22	(6)	22	(5)	14	(1)	274	(56)

※ () は女子で内数

3. 産業別就職状況

【学部】

平成22年5月1日現在

産業別分類	学部	学 部														合 計	
		文学部	教育学部		法学部	経済学部		理学部	医学部		歯学部	薬学部	工学部		農学部	獣医学部	産別就職者数
		就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数
農 業	農業、林業					1									1		2
	漁業							1					1	(1)			1
	鉱業、採石業、砂利採取業																
	建設業					3							3	(1)			6
	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	1	(1)		5	(1)	7	(2)	1			1	(1)		5	(1)	34
	繊維工業														2	(1)	3
	印刷・関連産業	1															2
	化学工業、石油、石炭製品製造業	1		2	(2)	1	5	1				2	1	(1)		7	(1)
	鉄鋼業、非鉄金属、金属製品製造業	3	(1)			7							5			1	(1)
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業				1								2		2		5
製 造 業	電子部品・デバイス・電子回路製造業				4	(4)							2				6
	電気・情報通信機械器具製造業												2		1	(1)	18
	輸送用機械器具製造業	1			2		11	(2)	1				8	(2)			24
	その他の製造業	3	(2)			2	(1)	2					3	(2)	2		13
	電気・ガス・熱供給・水道業	1	(1)		5	(2)	7	(1)	2				11	(4)	9	(4)	80
	情報通信業	15	(8)	2	(2)	13	(3)	16	(6)	(1)			5		2	(2)	20
	運輸業、郵便業	1	(1)	1	(1)	3	(1)	5	(1)	2	1	(1)	3		5		1
	卸売業	6	(1)	2	(2)	4	(3)	1	1				3		5		1
	卸売業・小売業	8	(6)	2	(1)	2	(1)	3	(2)	2		3	2		1		4
	小売業	9	(5)	5	(1)	9	(2)	27	(7)	3	(2)		2	(2)	1		27
金 融 業	金融業・保険業	5	(3)	6	(3)	5	(4)	1					2		2		60
	不動産取引・賃貸・管理業				1								1		1		26
	不動産業、物品賃貸業												1		1		3
	物品賃貸業																0
	学術・開発研究機関															1	0
	学術研究・専門・技術サービス業				2												2
	法務																
	その他の専門・技術サービス業	3	(1)	2	(2)	3	11	(2)	1	(1)			6			12	(3)
	宿泊業、飲食サービス業	1	(1)		1		1								1		5
	生活関連サービス業、娯楽業	5	(3)	2		1	2						3		1		14
教 育 ・ 学 習 支 援 業	学校教育	6	(2)		2	(2)	3	(3)	2				2		1		16
	その他の教育・学習支援業	3	(2)	2	(1)		1						1	(1)	2		9
	医療業、保健衛生・社会保険・社会福祉・介護事業	2	(1)	1						124	(84)	2					130
	医療・福祉				1	(1)											1
	複合サービス事業	5	(3)	1		4	(1)	2	(1)				1		2		22
	サービス業(他に分類されないもの)	1															1
	その他のサービス業	1	(1)	3	(1)		1	(1)					1	(1)		3	9
	国家公務	2			13	(8)	5	(1)	3				6		2	(1)	33
	地方公務	17	(8)	3	(1)	29	(10)	8	(2)	8		1	17	(2)	11	(5)	123
	上記以外	1								18	(9)		1				2
合 計		102	(51)	37	(20)	120	(45)	139	(39)	36	(5)	0	9	(1)	91	(15)	813

※ () は女子で内数

資 料

【修士課程】

産業別分類	研究科(学院)		文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	工学研究科	情報科学研究科	水産科学研究科	環境科学研究科	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院*	国際広域メディア学院*	保健科学学院	合 計
			就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	産業別就職者数
農 業	農業、林業																14 (4)
	漁業																1
	建設業						2				2						4
製 造 業	鉱業、採石業、砂利採取業						42 (5)	1		5 (2)	1 (1)	8 (2)			1		58 (10)
	食料品・飲料、たばこ、飼料製造業						3	1	24 (7)	6	5 (1)	39 (12)	16 (6)			1	95 (26)
	印刷・同梱工業						1				2						3
	化学工業、石油・石炭製品製造業		1						1	4 (2)	13 (2)	10 (4)	33 (8)			5 (1)	107 (22)
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業						39 (5)	1	2		2						
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業						44 (3)	7	1	5	2	2					61 (3)
	電子部品・デバイス・電子回路製造業						18	13 (2)	2 (1)	1 (1)	2	3 (1)	1				40 (5)
	電気・情報通信機械器具製造業		1		1		19 (4)	6	4	4 (1)	11 (4)	1					45 (9)
	電気・ガス・熱供給・水道業						55 (7)	40 (3)	3	3 (1)	4			1 (1)	2 (2)		110 (14)
	輸送用機械器具製造業						48 (1)	12	1	1 (1)	2	2					66 (2)
学 術 研 究 科	通信・郵便業						16 (3)	1	5 (1)	5 (2)	7 (2)	4 (1)	2		1		41 (9)
	情報通信業		6 (3)				32	13		1							46
	運輸業、郵便業		2 (1)		2 (1)		8	56 (2)	5 (1)	10 (2)	27 (4)	3	7 (5)	2 (2)	6 (3)		133 (23)
	卸売業・小売業						18 (1)	4	1	2 (1)	1	1			3 (3)		32 (6)
	小売業						4		3		2	3	2 (1)				14 (1)
	金融業・保険業		1 (1)		1 (1)				3	4 (3)		1 (1)	3				13 (6)
	金融業		1 (1)		1		1	1	1	4 (2)	5	2			2 (2)		18 (5)
	不動産業・物品賃貸業							1		1	5						7
	学術・開発研究機関											1					2
	学術・開発研究機関						2 (1)	3	1 (1)	5 (2)		3 (2)	1 (1)	1	1 (1)		17 (8)
教 育 学 習 支 援 業	その他の専門・技術サービス業		1 (1)				19 (3)	4		4 (1)	2 (1)		3 (2)				33 (8)
	宿泊業、飲食サービス業							1				1 (1)			1 (1)		3 (2)
	生活関連サービス業、娯楽業		3 (1)		1					1 (1)		1					6 (2)
	学校教育		2				1 (1)	3 (2)	1 (1)	7 (4)	14 (2)	1		11 (5)	4 (3)	1	46 (19)
	その他の教育、学習支援業		1 (1)					1		1 (1)	4 (1)	1			3 (1)	1 (1)	12 (5)
	医療業、保健衛生					9 (6)			1 (1)		1	1 (1)	21 (8)	1 (1)		9 (3)	43 (20)
	医療・福祉																0
	複合サービス事業								9 (1)			3			2 (1)		14 (2)
	サービス業(他に分類されないもの)						1										1
	公務(他に分類されるものを除く)		6 (3)	1 (1)	1		4 (1)	3 (1)	2 (1)	8 (1)	2	4 (3)	4 (1)				29 (9)
合 計	上記以外		1 (1)				1	18 (5)	2	4 (3)	2	7 (1)	2 (2)	2 (1)	1	1 (1)	61 (18)
	合 計		26 (13)	2 (1)	7 (2)	14 (9)	402 (40)	171 (9)	80 (17)	95 (33)	126 (21)	115 (34)	95 (34)	18 (10)	31 (19)	18 (6)	1,200 (248)

※ () は女子で内数

【専門職大学院】

産業別分類	研究科等		法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公法政策大学院 (公共政策学教育部)	合 計
	就職者数	就職者数				
農 業、林 業						
漁 業						0
鉱 業、採石業、砂利採取業						0
建設業						0
製 造 業	食料品、飲料、たばこ、肥料製造業					0
	繊維工業					0
	印刷・問屋運業					0
	化学工業、石油・石炭製品製造業					0
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業					0
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業					0
	電子部品・デバイス・電子回路製造業				1	1
	電気・情報通信機械器具製造業					0
	輸送用機械器具製造業			1 (1)		1 (1)
	その他の製造業					0
	電気・ガス・熱供給・水道業					0
	情報通信業	1			5 (3)	5 (3)
	運輸業、郵便業				1	2
	卸売業・小売業					0
	金融業・保険業	1			5 (3)	6 (3)
サービス業	不動産取引・賃貸・管理業					0
	不動産業・物品賃貸業					0
	学術・開発研究機関				1	1
	学術研究・専門・技術サービス業	3			1	4
	その他の専門・技術サービス業			4		4
	宿泊業、飲食サービス業					0
	生活関連サービス業、娯楽業					0
	学校教育					0
	その他の教育・学習支援業					0
	医療業、保健衛生・社会保険、社会福祉・介護事業					0
	複合サービス事業				2 (1)	2 (1)
	サービス業(他に分類されないもの)					0
	その他のサービス業					0
	公務(他に分類されるものを除く)	1			4	4
	上記以外				7 (2)	8 (2)
合 計	6			5 (1)	27 (9)	38 (10)

※ () は女子で内数

資 料

【博士課程】

産業別分類	研究科(学院)																			合 計
	文学研究科	教育学院	法学研究科*	経済学研究科	医学研究科	歯学研究科	工学研究科	獣医学研究科	国際広域メディア研究科*	情報科学研究科	水産科学研究科*	環境科学研究科*	理学院*	農学院*	生命科学学院	産業別就職者数				
農業、林業																	1	0		
																	0	0		
																		0		
							2											2		
							1								1					
							1											1		
																		0		
				1			5	1						2	(2)	1	(1)	7		
							3	(1)										5		
							3		1	(1)								4		
製 造 業																		2		
										2								7		
							1											2		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
電気・ガス・熱供給・水道業																		3		
	1						2	(1)										15		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
卸売業・小売業																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
金融業・保険業																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
不動産業・物品賃貸業																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
学術研究・専門・技術サービス業	2	(1)		1		16	(3)			2	9	(2)	4	(1)	2	2	(2)	38		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
宿泊業、飲食サービス業	3	(1)	5	(3)	6	(2)				2	(1)							66		
																		2		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
生活関連サービス業、娯楽業																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
教育、学習支援業																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
医療、福祉	1																	66		
																		2		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
複合サービス事業																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
サービス業(他に分類されないもの)																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
公衆(他に分類されるものを除く)																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																		0		
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
																	0			
上記以外	1	(1)				1	(1)											7		
																		4		
																		4		
																		4		
																		4		
																		4		
																	4			
																	4			
																	4			
																	4			
合 計	8	(3)	5	(3)	9	(2)	1	70	(17)	10	(2)	49	(7)	7	(2)	2	(1)	26		
																		26		
																		22		
																		17		

※ () は女子で内数

4. 地域別就職状況

【学 部】

平成22年5月1日現在

企業の所在地		学部															合 計
		文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部		歯学部	薬学部	工学部	農学部	獣医学部	水産学部			
就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	保健学科	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	地成別就職者数	
北海道	札幌市	42 (25)	14 (5)	28 (19)	44 (20)	10 (3)	88 (60)		3	23 (2)	13 (3)	3 (1)	11 (4)	277 (142)			
	札幌市以外	10 (4)		20 (4)	3	2	23 (11)		1	9	3	2	7 (3)	80 (22)			
	青森県						1			1				5 (1)			
	岩手県				1									1			
東北	宮城県	2 (2)									1		1	4 (2)		1	
	秋田県			1												1	
	山形県					1										0	
	福島県									1						2	
関東	茨城県															0	
	栃木県					1		1 (1)		1				3 (1)			
	群馬県	1								1			1	4		4	
	埼玉県		1	2 (1)	4	1	1 (1)				1		3 (1)	1 (1)	11 (3)	12 (5)	
北陸	千葉県	33 (14)	20 (13)	45 (15)	66 (13)	12 (2)	10 (8)	5 (4)	3 (1)	34 (7)	27 (6)	4 (1)	25 (11)	279 (91)			
	東京都	1 (1)		4 (1)	3 (2)		5 (5)			1	4 (1)	1 (1)	1 (1)	20 (12)		0	
	神奈川県															0	
	新潟県															4 (1)	
北陸	富山県			3	1 (1)									4 (1)			
	石川県			1	(1)						1 (1)					2 (2)	
	福井県						1									1	
	山梨県															0	
中部	長野県	1 (1)			1		1 (1)			1 (1)				4 (3)			
	岐阜県	1			1											2	
	静岡県	1 (1)	1 (1)	1	4 (2)		4 (2)			2 (1)		1 (1)	1 (1)	15 (8)			
	愛知県	1		4 (1)	6	2	1			1	1 (1)	1 (1)	4 (2)	21 (5)			
近畿	三重県			1								1		1		3	
	滋賀県							1 (1)					1	2 (1)		2 (1)	
	京都府	1 (1)		2 (1)			1				1 (1)	1		6 (3)		6 (3)	
	大阪府	2 (1)	1 (1)	2	4 (1)	2				7 (2)	1 (1)	5 (1)	2	26 (7)			
中国	兵庫県	1						1		4 (1)				5 (1)		5 (1)	
	奈良県															1	
	和歌山県															0	
	鳥取県															0	
中国	島根県															0	
	岡山県															0	
	広島県															0	
	山口県															0	
四国	徳島県					1		1						2		2	
	香川県															0	
	愛媛県	1														0	
	高知県			1 (1)		1										1	
九州	福岡県	1		1			1 (1)				2 (1)	1	1	7 (2)		7 (2)	
	佐賀県															1	
	長崎県											1				0	
	熊本県															1	
九州	大分県															0	
	宮崎県															0	
	鹿児島県															0	
	沖縄県	1 (1)		1		1										3 (1)	
海外					1											1	
就職先詳細不明		1											1			4	
合 計		102 (51)	37 (20)	120 (45)	139 (39)	36 (5)	0	144 (95)	0	9 (1)	91 (15)	53 (14)	26 (7)	56 (22)	813 (314)		

※ () は女子で内数

資 料

【修士課程】

企業の所在地	研究科(学域)		法学研究科	文学研究科	法学研究科	経済学研究科	医学研究科	工学研究科	情報科学研究科	水産科学研究科	環境科学研究科	理学院	農学院	生命科学学院	教育学院*	国際正學メディア・観光学院*	保健科学院	合 計
	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	就職者数	地域別就職者数
北海道	札幌市	10 (5)	1 (1)		4 (3)	23 (4)	19 (1)	9 (1)	17 (6)	8 (1)	8 (1)	8 (1)	8 (1)	14 (4)	8 (5)	10 (5)	8 (2)	139 (39)
	札幌市以外	1 (1)			5 (2)	34 (3)	6	10 (4)	8 (1)	14 (2)	5 (1)	5 (5)	7 (3)	2 (2)	2 (2)	3 (3)	101 (27)	
東北	青森県					1			1 (1)									2 (1)
	岩手県					3	1							1 (1)				1
	宮城県			1 (1)														6 (2)
	秋田県	1												1				2
関東	山形県										1							1
	福島県							1				2 (2)	1	1				5 (2)
	茨城県					6	3	1	2 (1)	1	2 (1)		5 (2)	6 (2)		1		24 (5)
	栃木県					3	1 (1)	1 (1)					1 (1)	1			1	8 (3)
	群馬県								2 (2)				3					5 (2)
	埼玉県					2 (1)	1	1	1 (1)	1	1 (1)	2	1	3 (1)				11 (3)
	千葉県	1	1			4	2	1	1	1	1	4	3 (1)	4				21 (1)
	東京都	6 (3)		3 (2)		209 (24)	105 (6)	41 (7)	39 (13)	64 (10)	59 (19)	22 (9)	2 (1)	22 (9)	2 (1)	12 (8)	5 (1)	571 (104)
	神奈川県	1 (1)				27 (4)	6 (1)	2	6 (2)	7 (3)	3 (2)	7 (3)	3	7 (3)				59 (16)
	新潟県	1		1 (1)		1	1	1	1	2 (1)	2	1 (1)	2	1 (1)				9 (3)
北陸	富山県					4	1	2 (1)	1			1		4				13 (1)
	石川県						1							1				2
	福井県																	0
	山梨県																	0
中部	長野県					3	1	1	1	1	1	2 (1)	3 (1)					11 (2)
	岐阜県					1												1
	静岡県	1 (1)				4	1	1	1	1	1	3	2	2 (1)		1	1	16 (2)
	愛知県			1 (1)		29 (2)	11	2	1 (1)	3	3 (1)	3	3 (1)	2 (1)		2		54 (6)
	三重県																	0
近畿	滋賀県																	0
	京都府									2 (1)	1 (1)	1				1 (1)		5 (3)
	大阪府					27	10	8 (3)	8	10 (3)	12 (5)	1 (1)	1 (1)	12 (5)	1 (1)	1 (1)		77 (13)
	兵庫県					10	1	3 (1)	1	1	2		1	2				18 (1)
	奈良県													1				1
	和歌山県																	0
	鳥取県																	0
	島根県																	0
	岡山県												1			1 (1)		2 (1)
	広島県					2												2 (1)
中国	山口県					1		1 (1)	1									2 (1)
	徳島県																	6 (1)
	香川県					1												1
	愛媛県																	1
九州	高知県					1												1
	福岡県									1	1 (1)					1 (1)		6 (3)
	佐賀県																	0
	長崎県					1			1 (1)									2 (1)
	熊本県																	0
	大分県	1																3
	宮崎県																	0
沖縄県	鹿児島県																	0
																		1 (1)
海外		2 (1)				4 (2)												7 (3)
	就職先詳細不明	1 (1)					1											3 (1)
合 計		26 (13)	2 (1)	7 (2)	14 (9)	402 (40)	171 (9)	80 (17)	95 (33)	126 (21)	115 (34)	95 (34)	18 (10)	31 (19)	18 (6)			1,200 (248)

※ () は女子で内数

【専門職大学院】

企業の所在地	研究科(学域)		法科大学院 (法学研究科)	会計専門職大学院 (経済学研究科)	公共政策大学院 (公共政策学教育部)	合 計	
	札幌市	札幌市以外	就職者数	就職者数	就職者数	地域別就職者数	
北海道				1	9 (2)	10 (2)	
					3 (2)	3 (2)	
					2 (1)	2 (1)	
東北						0	
						0	
						0	
						0	
関東			3			3	
			1			1	
			2	4 (1)	10 (3)	16 (4)	
					1	1	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
中部						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
近畿						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
中国						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
四国						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
九州						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
						0	
沖縄県						0	
海外						0	
就職先詳細不明						0	
合 計			6	5 (1)	27 (9)	38 (10)	

※ () は女子で内数

資 料

【博士課程】

研究科(学院)		文学研究科		教育学院		法学研究科*		経済学研究科		医学研究科		歯学研究科		工学研究科		獣医学研究科		国際応用研究大学院*		情報科学研究科		水産科学研究科*		環境科学研究科*		理学院*		農学院*		生命科学学院		計
		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		就職者数		
企業の所在地	北海道	札幌市	3		3	(1)	7	(2)																							76	(20)
		札幌市以外			2	(2)	1				40	(12)	6	(2)	1		1		2	(1)											47	(8)
		青森県									21	(3)	3		7		2	(1)													1	(1)
		岩手県									1																					1
東北	宮城県									1																					1	
	秋田県									1																					1	
	山形県																														1	
	福島県	1																													1	2
	茨城県													10																	1	
	栃木県																														1	
	群馬県																														1	
	埼玉県										2	(1)			1	(1)															4	(3)
関東	千葉県													1	(1)																2	(1)
	東京都			1						2	(1)			13	(2)	2															45	(7)
	神奈川県													1		2	(1)														15	(3)
	新潟県																														0	
北陸	富山県											1																			1	
	石川県																														0	
	福井県																														0	
	山梨県																														0	
中部	長野県																														1	
	岐阜県													1																	1	
	静岡県									1																					5	(1)
	愛知県																														4	
近畿	三重県																														0	
	滋賀県																														1	
	京都府														2																4	(1)
	大阪府													2																	7	10
	兵庫県																														4	(1)
	奈良県	1	(1)																												1	
	和歌山県																														0	
	鳥取県																														0	
中国	島根県																														0	
	岡山県														1																0	
	広島県														2	(1)															2	
	山口県																														2	(1)
四国	徳島県																														0	
	香川県																															

※ () は女子で内数

(学務部キャリアセンター)

〈編集メモ〉

▼今年はサッカーのワールドカップが開催されていて世界中が盛り上がっていますが、一足先に北大では全日本大学野球選手権で盛り上がりました。北大野球部が創部110年目で初勝利の快挙です。2回戦目も勝利。3回戦目は、神宮球場で強豪八戸大学と対戦しました。延長14回の熱戦の末に惜敗しましたが、その戦いぶりは北大関係者のみならず多くの人たちに感動を与えてくれました。この大会で北大野球部は特別賞を受賞しました。

▼交流プラザ「エルムの森」オープンセレモニーで、「エルムの鐘」が鳴り響きました。

この鐘は、普段、モデルバーンに展示されているものです。今回、特別に借りてセレモニーのなかで使わせてもらいました。戦前から戦後にかけて札幌キャンパスで時を告げていた鐘の音は、素朴ではあるけれどとても力強いものでした。（関連記事1ページ）

▼学士会館の北大コーナーに札幌農学校第一期生伊藤一隆の卒業証書（複製）を展示しています。この伊藤一隆の玄孫（孫の孫）にあたるのがタレントの中川翔子さん（しょこたん）だそうです。（関連記事11ページ）



2006. 8. 3 大雪山旭岳

北の息吹㊥ イワブクロ (*Penstemon frutescens*)

東北と北海道の火山に多い植物で、安定しない砂礫地に生える典型的なパイオニアプラントである。別名をタルマイソウというが、樽前山の九合目付近では本種のみが群生する斜面も多く、花付きがよいので盛花時には雅な色調に覆われる。筒状の花は桐の花に似ていて全体に長い毛が生えており、桐よりは赤みの勝る色調だが白花もあるという。7月中旬に車で支笏湖に行くことがあったら、少し足を伸ばして樽前山に30分ほど登ってみたらいかがでしょう。少しだけの努力に対して、十分応えてくれる美しい風景が待っていますよ。

理事・副学長 岡田 尚武

北大時報㊥ June 2010 No.675

平成22年 6 月発行

北海道大学総務部広報課

〒 060-0808 札幌市北区北 8 条西 5 丁目

TEL : (011) 706-2610 / FAX : (011) 706-4870 / E-mail : kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。http://www.hokudai.ac.jp/bureau/populi/